

## 平成27年度研究・教育活動報告

### 【人間文化学科】

アーウィン マーク

(1) 研究成果

Irwin, Mark. (2016). English Loanwords. In 'The Handbook of Japanese Lexicon and Word Formation', ed. Tarō Kageyama & Hideki Kishimoto, pp 161-197. Berlin: Mouton de Gruyter.

Irwin, Mark & Lyddon, Paul. (2016). Rendaku and Homophony. 音韻研究 19.

(2) 教育・地域連携等の活動

言語学演習, 英語コミュニケーション, コミュニケーションスキル I (英語)

相沢 直樹

(1) 研究成果

論文:

「芸術座の『生ける屍』と『さすらいの唄』——トルストイ受容のもうひとつのかたち」

『緑の杖』(日本トルストイ協会) 第13号

平成28年3月刊行予定

(2) 教育・地域連携等の活動

担当授業等:

(前期)

ロシア語 I (4), 欧米文化概論, ロシア語学演習, 現代外国語 (ロシア語), ロシア文化論特論 II, 欧米文化特別研究 I (3), 実践教育プログラム事前学習,

(後期)

ロシア語 II (4), ロシア語講読, 比較文学講義, ロシア文化論特別演習, 欧米文化特別研究 I (2), 欧米文化特別研究 II, 実践教育プログラム事前学習

講演:

「ゴンドラの唄 百年のこだま」

平成27年7月11日(土) 牛込算笥区民センター ※芸術座百年委員会主催

「『ゴンドラの唄』の魔力」

平成27年8月22日(土) 高知県香美市猪野々集会所 ※香美市立吉井勇記念館主催

## 浅野 明

### (1) 研究成果

論文：「わたくしたちと歴史の研究—田中陽兒『世界史学とロシア史研究』によせて—」『山形大学歴史・地理・人類学論集』第17号（2016年）83-101頁。

学会活動：「ロシア史研究会大会」（2015年10月10日，於：早稲田大学）において，2本の自由論題報告に対するコメンテーターを務めた。

### (2) 教育・地域連携等の活動

#### 担当授業

専門教育：人間文化入門総合講義，ヨーロッパ史講義（一），ヨーロッパ史演習（一），ヨーロッパ史英書講読（一），ヨーロッパ史概論。基盤教育：西洋中世史入門（歴史学）

#### 社会貢献

教員免許状更新講習 地歴（西洋史）2015年8月4日

### (3) 研究・教育活動に関するコメント

ロシア史研究会大会におけるコメントは，中世ロシアの歴史における重要な問題（世俗権力と教会の関係及び12-14世紀の国際関係）に関連しており，今後の研究にとって有益であった。論文（研究ノート）は，堅実な研究と重要な提言をもって戦後のロシア史学と世界史教育のレベル向上に大きく貢献した，田中陽兒氏の歴史研究に対する姿勢について，総合的に論じた。

## 阿部 晃士

### (1) 研究成果

#### （著書）

- ・片瀬一男・阿部晃士・高橋征仁，2015年9月，『社会統計学ベシック』ミネルヴァ書房。

#### （論文）

- ・阿部晃士，2015年7月，「震災後の住民意識における復興と格差：大船渡市民のパネル調査から」，『社会学年報』，44：5-16。
- ・山根純佳・阿部晃士，2015年9月，「子育て世帯における日常と災害時のネットワーク：山形大学周辺における小学生の保護者に対する調査より」，『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』，12：53-60。
- ・堀籠義裕・阿部晃士・茅野恒秀，2015年11月，「東日本大震災津波被災地における生活復興過程：2011年と2013年の大船渡市民横断調査をもとに」，『総合政策』，17（1）：21-39。
- ・阿部晃士，2016年3月，「震災が社会調査に突きつける課題とは」，『社会と調査』，18：5-9。

### (2) 教育・地域連携等の活動

#### （担当授業）

- ・現代社会学演習，社会学演習，社会学概論，調査方法論，社会調査論，卒業論文（10名），基礎講義（地域・人間），社会の教材分析 A，意識調査から見る現代社会（基盤，社会学）（以上，山

形大学)

- 社会意識論 (放送大学宮城学習センター)
- 復興の社会学 (学都仙台コンソーシアム「復興大学」)  
(地域連携)
- 山形南高校出張講義 (2015年9月)

### (3) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動では、(1) 社会統計学のテキスト出版、(2) 大船渡市における震災復興に関する調査の分析と追跡調査の実施 (科研費分担者)、(3) 仙台市における環境意識に関する調査の実施 (科研費分担者)、(4) 社会調査のエキスパートを対象とする調査手法についてのインタビュー調査 (科研費・基盤 C, 代表者) などを並行して行った。一方で、10名の卒論指導をおこなうなど、教育面でも多忙な1年となった。

## 新宮 学

### (1) 研究成果

論文:「首都の地位を奪われた南京——『洪武京城圖志』研究序説——」『東洋史研究』74巻2号, 116~154頁 2015年9月

論文:「北京城と葬地—明王朝の場合—」『都市と環境の歴史学』〔増補版〕第3集, 183~214頁 2015年7月

論文:「洪武の都, 南京城の景勝 (一)」『東北大学東洋史論集』12輯, 281~313頁, 2016年2月  
国際会議報告:「被剥奪了首都地位的南京——《洪武京城図志》研究序論」2015年8月23日 絲綢之道研究与歴史地理信息系统建設国際学術研討会 (中国西安市・陝西師範大学)

### (2) 教育・地域連携等の活動

- 当該年度における授業等 (担当授業名)  
〔学部〕 アジア史概論, アジア史講義 (一), アジア史演習 (一), アジア史史料講読 (一), 現代東アジア地域論 (一), 中国の歴史 (歴史学), マルコ・ポーロ『東方見聞録』を読む (教養セミナー), 卒業論文指導  
〔大学院〕 東アジア近世史特別演習
- 模擬講義:「大学で学ぶ新しい世界史」2016年2月16日 福島県立双葉高校進路講演会(いわき市)
- 教職免許状講習 (高校地歴・中学社会):「東アジアからみた世界史」8月5日

### (3) 研究・教育活動に関するコメント

- 博士論文が任大熙教授・全東淳教授の尽力で韓国語に全訳され、瑞景文化社より出版された。学生の教育では、中村篤志先生とともに4名の学生の卒論指導を行った。
- 小白川キャンパス国際センター長として、留学支援室とセンター運営委員会との調整等に当たった。また Global cafe や外国人留学生・チューター合同研修旅行を企画実施した。

## 池田 光則

### (1) 研究成果

[学術論文等]「山形方言の中の世界標準」『山形学研究』13 (山形の魅力再発見パート13報告書)

### (2) 教育・地域連携等の活動

#### (a) 担当授業

- 学部専門教育科目：言語学概論, 言語学特殊講義, ラテン語 I, ラテン語 II, ラテン語上級
- 基盤教育科目：言語学概論 (言語学), 言語学とその周辺領域 (言語学), 英語
- 大学院：言語学特別演習

#### (b) 卒業論文指導テーマ

- 「動名詞+です」の使用について

#### (c) 模擬講義・公開講座

- 「ことばの意味の仕組み—現代言語学の視点から—」[秋田県立湯沢高等学校大学訪問 (模擬講義)] 2015年9月28日
- 「山形方言の中の世界標準」[2015年度山形大学都市・地域学研究所公開講座] 2015年10月3日

## 石澤 靖典

### (1) 研究成果

[論文]

- 「ボッティチェッリ作《聖母子と四天使と六聖人 (サン・バルナバ祭壇画)》—ダンテ『神曲』銘文と聖母信仰」, 『山形大学人文学部研究年報』第13号, 2016年3月, 1-19頁

[学会・シンポジウム等口頭発表]

- 「菊池新学の功績と研究の現状—没後100年を記して」(趣旨説明)およびパネルディスカッション司会, 没後百年記念 菊池新学シンポジウム, 2015年12月20日, 山形大学人文学部

### (2) 教育・地域連携等の活動

[担当授業]

- 学部専門科目：美学・芸術学特殊講義, 芸術文化演習 (一), 表象文化演習, 基礎講義 (文化解釈学), 表象文化講義, 芸術文化演習 (二), 芸術文化実習
- 大学院科目：美学・芸術史特論 II, 美学・芸術史特別演習
- 基盤教育科目：美術の歴史, 西洋美術鑑賞入門

[卒論指導]

- 10名担当 (ブロンズイーノ《愛の寓意》論, ジェロームのピュグマリオン主題画研究, 球体関節人形論, 少女マンガにおける歴史の表象, エラリー・クイーンと「新本格」, 心霊写真論, 記号的身体構築, 『魔法少女まどか☆マギカ』考, ポスターにおける地方表象, 近代における女性の身体表象)

〔受賞〕

- 平成27年度山形大学優秀教育者賞受賞, 2015年12月24日

〔地域連携〕

- 人文学部アカデミックインターンシップ(山形大学アカデミックキャンプ)で講義「パブリックアートについて考える」を担当, 2015年8月7日
- 「花と庭園でたどる西洋美術史」, NHK文化センター福島および同郡山, 一日講座, 2015年5月9日
- 「永遠の都ローマとバロック美術の壮麗」, NHK文化センター郡山, 一日講座, 2015年11月7日

(3) 研究・教育活動に関するコメント

- 研究活動としては, 科研費・基盤研究Cを獲得し(研究課題名:「ルネサンス期のフィレンツェにおける芸術家と都市の称揚に関する研究」), その研究成果の一部を論文として発表した。
- 映像文化研究所の主催で「菊池新学シンポジウム」を開催し, 学内外の研究者と情報交換の場をもつことができた。企画の実現にあたっては, 山形大学人文学部研究活動支援制度(プロジェクト研究支援(A))の助成および大学附属博物館の協力を仰ぎ, 学際的研究プログラムとしての性格を示すよう留意した。今後も内外の研究機関や地域の文化施設と連携しつつ, このテーマに関する調査研究を継続していきたい。
- 教育に関しては, 例年になく表象文化論専修の卒論指導を多く担当することとなったが, テーマ選択や扱う題材の点でこれまでにない多様性が見られ, 全体的に内容の充実度が高かった。芸術文化論専修では二名の卒論指導を担当したが, いずれの論文も, 欧語文献を批判的に参照しつつ独自の見解を主張する論旨となっており, 学術レベルの向上を窺わせた。

伊藤 晶文

(1) 研究成果

〔著書(分担執筆)〕

- 小岩直人・高橋未央・杉澤修平・伊藤晶文(2015): 微地形分布から考察する津波で消滅した砂嘴の再生過程—タイ南西部パカラン岬の事例—。藤本 潔・宮城豊彦・西城 潔・竹内裕希子編: 微地形学—人と自然をつなぐ鍵。古今書院, 239-250。

〔学術論文等〕

- 伊藤晶文(2014): 中田地区の位置と自然。鹿児島大学教育学部地域社会教育専修久保田治助研究室編: 中田地域白書2014年度版。kinko's 鹿児島鍛冶屋町店, 鹿児島, 9-10。

- 伊藤晶文・森 彩香・松本秀明(2015): 2011年東北地方太平洋沖地震津波により仙台平野に形成された泥質堆積物に含まれるイオウ。山形大学歴史・地理・人類学論集, 17, 75-82。

〔学会発表等〕

- 伊藤晶文・森 彩香・松本秀明(2014): 仙台平野北部地区に堆積した2011年東北地方太平洋沖地震津波の泥質堆積物のイオウ含有量。2015年度東北地理学会春季学術大会。

- 伊藤晶文・阿子島功(2014): ナスカ台地および周辺の環境地理学調査。文部省科学研究費補助

金新学術領域「古代アメリカの比較文明論」第2回領域会議（研究者全体集会）.

Koiwa, N., Kasai, M., Sugisawa, S., Ito, A. and Matsumoto, H. (2014) : Recovery and formation processes of barrier spit eroded by the 2004 Indian Ocean Tsunami at Pakarang Cape, southwestern Thailand. XIX . INQUA Congress (第19回国際第四紀連合大会).

伊藤晶文・小岩直人・武田 開 (2014) : 宮城県井土浦周辺における2011年東北地方太平洋沖地震津波後の地形変化—DEM および SfM 処理による DSM を用いた検討—. 2015年度東北地理学会秋季学術大会.

## (2) 教育・地域連携等の活動

[担当授業]

(前期) 環境地理学概論, 環境地理学演習, 環境地理学調査実習, 地図を読む (教養セミナー), 環境地理学特論Ⅱ

(後期) 地図情報論, 地圏環境論演習, 基礎講義 (地域・人間), 自然地理学 (地理学), 環境地理学特別演習

[地域連携等]

国土交通省国土地理院 治水地形判定委員会委員 (東北地区)

高校訪問 (2校)

模擬授業 (山形県立長井高等学校, 大学訪問時, 平成27年11月9日)

山形県金山町中田地区の地域白書の一部を執筆した (出典は学術論文等に記載)

## (3) 研究・教育活動に関するコメント

国内では, 巨大津波による地形変化や堆積物に関する研究を実施した。海外 (ペルー) では, ナスカ台地にて地形変化量に関する定点観測を開始した。着任後, 初めて大学院の授業を担当した。

## 宇津 まり子

### (1) 研究成果

映画評 : 『『ANIIE / アニー』評』『東北アメリカ文学研究』39号 (2015), 146-150

研究発表 : 『『ハッシュバピー〜バスタブ島の少女』が隠蔽してしまうもの』津田塾大学言語文化研究所アメリカ文学女性像研究会 (2015年10月17日, 津田塾大学)

### (2) 教育・地域連携等の活動

担当授業 : 実践英語, アメリカ研究演習, アメリカ研究特殊講義, 英語 C, 英語 R, 異文化間コミュニケーション I (セブ市, 2016年2月28日~3月13日引率)

出前授業 : 「コロンブスはヒーローか?」 (2015年10月27日, 青森北高等学校)

地域連携 : 米沢市男女共同参画会議委員

## 大久保 清朗

### (1) 研究成果

#### 翻訳

- ・リチャード・シッケル『スティーヴン・スピルバーグ レトロスペクティブ』（南波克行と共訳）、西村書店、2015年12月。

#### 論文

- ・「『ザ・マスター』をめぐる六つの断片的考察」、『ユリイカ』2015年5月号、189-199頁。
- ・「境界と奈落——細田守『バケモノの子』」、『ユリイカ』2015年9月臨時増刊号、57-64頁。
- ・「映画の逆説、逆説の愛——『浮雲』冒頭におけるドキュメンタリーからフィクションへの越境体験」、『中央評論』第293号、中央大学出版部、2015年11月、40-50頁。
- ・「戦後とその分身——『めし』における成瀬巳喜男と原節子」、『ユリイカ』2016年2月号、174-185頁。

### (2) 教育・地域連携等の活動

#### 評論

##### (1) 雑誌

- ・「人間の時間、惑星の時間——パトリシオ・グスマン『真珠のボタン』」、『スプートニク』山形国際ドキュメンタリー映画祭、2015年10月、10-12頁。
- ・「「見る」ということの意味」、『フリースタイル』第30号、2015年12月、33-35頁。
- ・「そこはかかない欧州の香り——『ブリッジ・オブ・スパイ』と10本の映画」、『キネマ旬報』2016年1月下旬号（1708号）、44-46頁。
- ・「アニメーションの無数の扉とは？——アレ・アブレウ監督『父をさがして』」、『キネマ旬報』2016年3月上旬号（1711号）、50-51頁。

##### (2) 新聞・ウェブ

- ・『サンドラの週末』2015年5月17日  
(<http://globe.asahi.com/cinema/2015051500015.html>)
- ・『バードピープル』2015年9月20日  
(<http://globe.asahi.com/cinema/2015091800014.html>)
- ・『アンジェリカの微笑み』2015年12月5日  
(<http://globe.asahi.com/cinema/2015120400012.html>)
- ・『ヘイトフル・エイト』2016年3月6日  
(<http://globe.asahi.com/cinema/2016030400011.html>)
- ・「現実こそ夢の世界のよう——『ドラえもん のび太と鉄人兵団』」2015年4月26日。
- ・「まさしく映画体験の寓意——『過去へ旅した女』」2015年6月7日。
- ・「輪郭の定まらない生刻む——『王立宇宙軍 オネアミスの翼』」2015年7月19日。
- ・「響く哄笑は神の嘲笑か——『アマデウス』」2015年8月30日。
- ・「官能と恐怖に溺れる——『銀河鉄道之夜』」2015年10月11日。
- ・「死へ暴走する世界の狂気——『とむらい師たち』」2015年11月22日。



- ・「現世があこの世という寓意——『ホワイトナイツ／白夜』』2016年1月10日。
- ・「生の本質根ざすはかなさ——『風が吹くとき』』2016年2月28日。

#### 書評

- ・「慎ましさと強かさ——『映画はやめる パトリス・ルコント, 自作を語る』, 『キネマ旬報』2015年11月下旬号(1703号), 176-177頁。

#### 講演など

- ・講演「成瀬巳喜男と水木洋子」, 市川市文学ミュージアム, 2015年4月25日。
- ・講演「そして何も変わらなかったのか」, 山形大学国際学術講演会「この都市(まち)に『風をあつめて』——70年代日本とポピュラーカルチャー」, 2015年12月17日。
- ・対談「『スピルバーグ その世界と人生』(西村書店)刊行記念 スピルバーグが描いてきたもの——テーマ・映像・物語——」, ジュンク堂書店池袋本店, 2016年1月22日。

#### (3) 研究・教育活動に関するコメント

- ・最終的に8人の学生の卒業論文を指導した。論文の内容は確実に向上しているといえる(今年度の卒業生のうち一人が東京大学大学院に進学することができたのもその証左といえる)。
- ・2015年10月に開催された山形国際ドキュメンタリー映画祭において, 特集上映シンポジウムの司会, 台湾映画特集イベントの進行, 香港浸会大学大学院生との交流などで微力ながら貢献することができた。また12月に開催された国際学術シンポジウム(マイケル・ボーダッシュ教授講演)にも参加することができた。
- ・研究・教育活動と直接関係はないかもしれないが, 8月の花笠祭りに参加したのは, 人文学部の教員ではわたしだけであった。これはもっと多くの教員が参加すべきだと思った。

#### 小熊 正久

##### (1) 研究成果

- ・『画像と知覚の哲学—現象学と分析哲学からの接近』(東信堂, 2015.11. 共編, 共著)の編集および「画像表象と中立性変様」, 「時間意識を介しての感覚と意味」の章の執筆。
- ・『自然観の変遷と人間の運命』(東北大学出版会, 2015.11. 座小田豊編, 共著)「人間にとっての地球の意味—フッサールとブルーメンベルクの考察—」の章を執筆。

##### (2) 教育・地域連携等の活動

- ・担当授業科目:「スタートアップセミナー」, 「人間と世界の関わり」(基盤教育「人間とは何か」), 「西洋哲学史」, 「哲学講義(二): 言語的表象について」, 「西洋哲学講読」(前・後), 「哲学演習(二)」(後), 「ギリシア語Ⅰ, Ⅱ」
- ・指導した卒論のテーマ:「夢について—夢の物語性の問題—」, 「サルトルの実存主義における自由と本質について」, 「ハイデガー『存在と時間』における本来性と非本来性」, 「ミレトス学派の哲学者」



- 社会貢献：2016. 2. 29：山形新聞進路関係の広告に卒業生についてのコメントを載せる。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

- 科研の共同研究「表象媒体の哲学的研究—画像の像性と媒体性の分析を中心に—」の研究成果を『画像と知覚の哲学—現象学と分析哲学からの接近』としてまとめることができた。
- 以前から気にかかっていたフッサールとブルーメンベルクの関連の一側面について、上記共著の一章としてまとめることができた。
- 「スタートアップセミナー」において「東日本大震災のその後」を主題とする発表とレポートを課したが、全体として充実したものとなった。

**柿並 良佑**

(1) 研究成果

なし

(2) 教育・地域連携等の活動

- 国際講演会「この都市（まち）に風をあつめて—70年代日本とポピュラーカルチャー」2015年12月17日，山形大学：トークセッション司会。
- 講演会「恋する人文学—哲学・文学・恋愛」2016年2月6日，山形大学：企画，トークセッション登壇。
- [レビュー]「名」の拒否—『エマク・バキアを探して』, 『スプートニク』, 山形国際ドキュメンタリー映画祭公式ガイドブック, 43-44頁。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

科学研究費補助金（若手研究（B））による研究課題「現代哲学における特異性概念の探究—ナンシー哲学研究から出発して」に着手。

表象文化論・フランス語の教育体制の構築に積極的に参加。

**許 時嘉**

(1) 研究成果

（学会発表）許時嘉，「明治期日本漢詩人の海外活動と漢詩文創作——初山衣洲を例にして」, 日本台湾学会第17回学術大会（東北大学），平成27年5月

（雑誌記事）許時嘉，「現代台湾ドキュメンタリーへの招待」, 『SPUTNIK：YIDFF READER』, 2015年10月，59-60頁

(2) 教育・地域連携等の活動

- 担当授業：初修中国語Ⅰ，初修中国語Ⅱ，スタートアップセミナー，比較文化概論（共同担当），中国文学講義（共同担当），アジア文化演習，現代中国論，時事中国語，卒論指導（2名），実践教育プログラム事前指導（中国語），近現代東アジア特論Ⅰ（院），近現代東アジア特論Ⅱ（院）。

- 2015年度異文化間コミュニケーション I 台湾実習企画及び引率分担 (2015年 8月30日～9月13日)
- 台湾ドキュメンタリー映画祭「映像は語る：ドキュメンタリーに見る現代台湾の光と影」コーディネーター (2015年10月9日～11日。主催：山形大学人文学部附属映像文化研究所, 台湾文化部)
- 香港浸会大学学生(8名)の山形大学人文学部訪問及び学生映像研究会を企画(2015年10月9日)
- 2016台湾師範大学受入れプロジェクト in YAMAGATA・コーディネーター(2016年2月15～24日)

(3) 研究・教育活動に関するコメント

- 科研費「若手研究 B」(2014年4月～2017年3月)を獲得し, 研究, 教育において大いに努力した。

清塚 邦彦

(1) 研究成果

(a) 研究業績

(著書・共著)

- 野家啓一・門脇俊介編『現代哲学キーワード』有斐閣, 2016年1月14日, 第4章「言語」67-87頁を担当
- 小熊正久・清塚邦彦編『画像と知覚の哲学：現象学と分析哲学からの接近』東信堂, 2015年11月30日, 第4章「絵の中に見えるもの：見えるものと描かれたもの」74-98頁

(書評)

- 「書評：菅野盾樹『示しの記号』(産業図書)』『図書新聞』3242号, 2016年02月13日, 3頁(学会発表)
- 清塚邦彦「画像の知覚と描写内容」(ワークショップ「心の哲学と美学の接続点」における提題), 日本科学哲学会第48回大会, 国内会議, 2015年11月21日, 首都大学東京

(その他の研究活動)

日本科学哲学会 評議員

日本哲学会, 応用哲学会, 科学基礎論学会 学会誌査読委員

日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員

(2) 教育・地域連携等の活動

(a) 担当授業

(基盤教育)

「哲学ってどんなこと? (哲学)」(後期)

(専門教育)

「論理学概論」(前期), 「哲学概論」(後期), 「応用倫理学演習」(前期), 「情報記号論」(後期), 「現代応用倫理」(後期), 「記号論演習」(後期)

(大学院)

「英米哲学特論」(前期), 「英米哲学特別演習」(後期)

卒論指導担当2名

(b)

- 山形大学基盤教育院評価改善会議『平成27年度山形大学基盤教育評価改善報告書』第1章, 第3章を執筆。

小泉 有紀子

(1) 研究成果

学会発表等

- 小泉有紀子。「『効く』ライティング指導を目指して～アメリカと日本の大学1年次授業例を中心に」山形県置賜地区高等学校教育研究会英語部会主催講演会(招聘)2015年5月。
- 小泉有紀子「より効果的なライティング指導とは何か～日米大学の授業例を中心に考える」山形県最北地区高等学校教育研究会英語部会主催講演会(招聘)2015年5月。
- Koizumi, Y. Teaching Effective Writing, Effectively: A Case Study from Japanese University EFL Classrooms. Invited presentation at the JALT Yamagata Chapter Meeting, May 2015.
- Koizumi, Y. Teaching English to English native speakers!? --a story of a Japanese graduate student in the US— International Association of Japanese Studies (IAJS, 国際日本文化研究会) 山形支部講演会(招待講演) July 2015.
- 小泉有紀子 エチェニケ ラザロ. 第2言語の英語文処理における韻律的情報の利用可能性について～否定と副詞節の曖昧構文の音響分析. 第41回全国英語教育学会熊本研究大会研究発表. 熊本学園大学. 2015年8月。
- Koizumi, Y. On the role of prosody and pragmatics in sentence comprehension: The processing of the 'not-because' scope ambiguity in English and beyond. Invited talk (招聘講演) at the School of Linguistics and Language Studies Speaker Series, Carleton University, Ottawa, Canada. (November 20, 2015)
- Koizumi, Y. The role of prosody and pragmatics in resolving scope ambiguity: The case of 'not-because' sentences in English, and beyond. Invited talk (招聘講演) at Psycholinguistics Supper Club, Graduate Center, City University of New York. (November 17, 2015)

(2) 教育・地域連携等の活動

担当授業:

基盤教育: スタートアップセミナー 英語C 英語R

専門教育: 実践英語(一) 英語学演習 言語学総合講義(心理言語学)

大学院: 現代外国語(英語)

出張講義: 岩手県立不來方高等学校 2015年6月

地域連携活動:

山形県英語教育研究会 東南置賜地区 中学校高等学校英語弁論大会審査員(審査委員長)

(3) 研究・教育活動に関するコメント

2015年10月より、YU 海外研究グローイングアッププログラム助成を受け、米国 NY 市立大学に客員研究員として滞在していました。来年度は引き続き、スペインに場所を移して研究活動を行う予定です。貴重な機会をいただいたことに感謝し、実り多い滞在としたい所存です。

合田 陽祐

(1) 研究成果

論文・書きもの：

1. ロジャー・シャタック著『祝宴の時代——ベル・エポックと「アヴァンギャルド」の誕生』書評、『週刊読書人』, 3113号, 6面, 2015年10月。
2. 「近代的恋愛からの「踏みはずし」(くまざわ書店山形店でのブックフェアの選書とコメント), 『nyx』別冊小冊子, 2016年1月。
3. 「1890年代の「小雑誌」グループについて」, 『Nord-Est』, 日本フランス語フランス文学会東北支部会報, 9-10号, 2016年, 2-7頁。
4. 「編集者としてのジャリとゲールモン——前衛版画雑誌『イマジエ』について」, 『Nord-Est』, 日本フランス語フランス文学会東北支部会報, 9-10号, 2016年, 20-25頁。

口頭発表・トークイベント：

1. 「『イマジエ』とジャリの美術批評の方法について」, 関西シュルレアリスム研究会, 於近畿大学, 2015年12月27日。
2. 「1890年代の文芸誌とその機能——『メルキュール・ド・フランス』, 『白色評論』, 『ラ・プリューム』, 『レルミターージュ』を中心に——」, 日本フランス語フランス文学会東北支部会, 於石巻専修大学, 2015年11月7日。
3. 「十九世紀末前衛におけるアナクロニズムの問題——ゲールモンとジャリの版画雑誌『イマジエ』の場合——」, 日本フランス語フランス文学会東北支部会, 於石巻専修大学, 2015年11月7日。
4. トークセッション「恋愛を哲学する」, 座談会「恋する人文学」(柿並良佑氏と), 恋する人文学(『nyx』2号第2特集「恋愛論」より), 於山形大学, 2016年2月6日。

(2) 教育・地域連携等の活動

前期担当授業：フランス語3コマ(人間文化学科×2, 地域教育学部), フランス語講読, 実践教育プログラム, スタートアップセミナー, 欧米文化概論, フランス文化論特論II(大学院)。

後期担当授業：フランス語3コマ(人間文化学科×2, 地域教育学部), フランス文化論, 基礎講義(グローバル), 実践教育プログラム, 国際文化学概論, フランス文化論特別演習(大学院)。

山形大学人文学部棟において、堀之内出版共催のイベント「恋する人文学」のトークセッションと座談会に参加し、発表者へのコメントと、18世紀フランス小説における姦通のテーマで、一般聴衆と学生を前に講演を行った。東北大学大学院文学研究科の今井勉教授、同国際文化研究科の坂巻幸司准教授と共同して、日本フランス語フランス文学会東北支部大会において、シンポジウム「世紀末の文芸誌と作家たち」を企画・開催した。研究発表を2つ(総論と個別発表)担当し、東北6県のほかに、東京や関西からの聴衆も参加した。

卒業論文の指導を一件担当した（「オスカー・ワイルドの『サロメ』について」）。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

- 上記のイベント「恋する人文学」に際し、小白川図書館におけるブックフェアを企画し、図書館関係者の協力を得て、関連図書にコメントを付して展示を行った。同トークイベントには50名以上の学生の参加があり、ブックフェアの効果がうかがえた。
- 実践教育プログラムで、フランス語圏ケベックに留学を希望する学生3名の指導を行い、全員を審査合格に導いた。夏季講習や発音矯正の補講を行い、志望理由書（フランス語の書類を含む）の指導とチェックを綿密に行った。書類作成でも学生のサポートを行い、派遣先大学とのやり取りを無事終えた。
- 2年次の実践教育プログラムの履修者で留学が決定した学生（3年生）と、フランス語検定試験を受験予定の学生に依頼され、フランス語会話・作文の授業を週1回のペースで実施した。
- 本年度は、フランス語検定試験の受験をとくに推奨し、試験対策に取り組んだ。上級での合格報告があったのは、仏検2級が1名、仏検準2級が1名。3級・4級に関しては複数名の合格報告があった。

坂井 正人

(1) 研究成果

〔口頭発表〕

- Nasca Lines, Ceramic Sherds, and Social Changes: Recent Investigation at the Nasca Pampas, Southern Coast of Peru. (Masato Sakai, Jorge Olano, Yoichi Watanabe and Kaoru Honda) 80th Annual Meeting, Society for American Archaeology (Symposium: From Foragers to Empires: Recent Research on the South Coast of Peru), Hilton Conference Center, San Francisco. 2015年4月16日.
- 「ナスカ台地の地上絵と景観構造」(坂井正人) 日本ラテンアメリカ学会・第36回定期大会, 専修大学. 2015年5月30日.
- 「古代アメリカの比較文明論とアンデス文明の展開」(坂井正人) 『公開講演会：古代アメリカの比較文明論：メソアメリカとアンデス』 国立民族学博物館第4セミナー室, 2015年6月6日。
- Rito Regional y Panregional en las Pampas de Nasca : Actividad Humana y Organización Social Prehispánica en los valles del Río Grande de Nasca. (Masato Sakai, Jorge Olano y Tadasuke Monma) SIMPOSIO : Patrimonio cultural y del medio ambiente en la Cuenca del Río Grande de Nasca (Perú) y su área de influencia: los retos y recursos para la gestión del desarrollo humano en el Período Intermedio Temprano, Congreso Internacional de Americanistas 55, Universidad Francisco Gavidia, San Salvador. 2015年7月13日.
- Proyecto de Investigación Arqueológica Líneas y Geoglifos de las Pampas de Nasca. (Masato Sakai, Yoshimitsu Ccoyllo, Jorge Olano, Yuichi Matsumoto y Atsushi Yamamoto). II Congreso Nacional de Arqueología. Gran Teatro Nacional del Peru. 2015年8月6日.
- Proyecto de Investigación Arqueológica Líneas y Geoglifos de las Pampas de Nasca 2006-2015. (Masato Sakai, Yoshimitsu Ccoyllo, Jorge Olano, Yuichi Matsumoto y Atsushi Yamamoto) II

Simposio de Arqueología Avances de las Investigaciones Arqueológicas de las Misiones Italiana y Japonesa. Museo Arqueológico Antonini. 2015年9月5日.

- 「ペルー南海岸・インヘニオ谷における考古学調査」(山本睦, 松本雄一, 坂井正人, ホルヘ・オラーノ, ヨシミツ・ホイヨ) 第20回古代アメリカ学会, 東京大学理学部, 2015年12月5日.
- 「アンデスとメソアメリカの比較: 視線の物質化と語りの物質化をめぐる」(坂井正人) 『新学術研究「古代アメリカの比較文明論: A02と A03合同研究会」, キャンパスイノベーションセンター東京, 2016年1月23日。
- 「パコバンバ神殿における景観と建築活動: 人類学的物質文化研究の視点より」(坂井正人) 『公開シンポジウム「アンデス文明初期の神殿と権力生成」, キャンパスイノベーションセンター東京, 2016年1月30日。
- 「古代アンデスの人びとは, 天空に何を見たのか」(坂井正人) 南山大学人類学研究所・国立天文台共催 公開講演会, 南山大学名古屋キャンパス, 2016年2月28日。
- When the geoglyphs were made at the Nazca Pampa? (Masato Sakai) Round Table Conference on Nasca, 2016. Yamagata University, 2016年3月7日.

〔著書・論文等〕

Informe Final del Proyecto de Investigación Arqueológica de las Líneas y Geoglifos de la Pampa de Nasca (Séptima Temporada). (Masato Sakai, Yoshimitsu Ccoyllo, Jorge Olano, Yuichi Matsumoto, Atsushi Yamamoto), 933p., Ministerio de Cultura del Perú, Lima, 2015.

## (2) 教育・地域連携等の活動

〔担当授業〕

文化人類学入門 (人間を考える), 世界遺産ナスカ地上絵とアンデス考古学 (基盤教育), スタートアップゼミ, 文化動態論 (人類), 文化動態論基礎講義, 文化人類学概論 (一), 文化人類学講義 (一), 文化人類学演習 (一), 文化人類学演習 (二), 文化人類学実習, 文化人類学特論Ⅱ (大学院), 文化人類学特別演習 (大学院), 歴史文化特別研究 (前期/後期) (大学院), 教材開発のための先進研究 (教職大学院)

〔卒業論文〕

「地上絵・制作・認識: 動植物表象をめぐる」 「ベットの主体性と駆け引き: 日常生活から問い直す」 「総代と祭礼」 「姉家督相続」 再考」

〔地域連携〕

- 「ナスカの地上絵の制作」(実習) 『寺小屋子ども大学』, 山形大学グランド, 2015年5月10日
- 「ナスカの地上絵とは?」(講演) 『寺小屋子ども大学』 2015年5月10日山形大学人文学部
- 「ナスカ地上絵のなぞに迫る」(講演), 朝日カルチャーセンター・千葉, 2015年5月23日
- 「世界遺産ナスカの地上絵」(山形大学人文学部附属ナスカ研究所パネル展), 山形県立中央病院「あおやぎギャラリー」, 2015年6月14日～7月25日
- 「考古学から見たナスカの地上絵」(講演), 山形県立病院・講堂, 2015年7月24日。
- 「世界遺産ナスカの地上絵の魅力: 謎の解明と保護をめぐる」(講演) 調停委員東北大会講演会, パレス・グランデール, 2015年9月25日



- ・「山形大学のナスカ地上絵研究」(講演) 大石田町町民大学, 大石田町福祉会館, 2015年10月15日
- ・「山形大学のナスカ地上絵研究」(講演) 山形市中学校長会議, 山形市立第五中学校, 2015年11月10日
- ・「ナスカ研究の魅力」(講演) 山形市小学校長会, 山形市総合学習センター, 2015年11月13日
- ・「ナスカの地上絵: 山形大学人文学部附属ナスカ研究所の成果から」(展覧会) 山形県郷土館・文翔館, 2016年2月14日~3月13日
- ・「山形大学人文学部学生によるナスカ地上絵展の展示解説」(指導), 山形県郷土館・文翔館, 2016年2月20日・21日・27日・28日, 3月5日・13日・14日
- ・「最近のナスカ研究の動向: 山形大学の調査活動を中心に」(講演), 文翔館議場ホール, 2016年3月6日

### (3) 研究・教育活動に関するコメント

「アンデス比較文明論」(科学研究費補助金・新学術領域研究)による共同研究(2年目)を実施するとともに、現地調査で発見した新地上絵(動物の地上絵24頭)を公表した。また、イタリア調査団と共催して2つの国際シンポジウムを実施した。ひとつは第55回アメリカニスト国際会議(エルサルバドル共和国)で開催したシンポジウム *Patrimonio cultural y del medio ambiente en la Cuenca del Río Grande de Nasca (Perú) y su área de influencia*, もうひとつは Museo Arqueológico Antonini (ペルー共和国)で開催したシンポジウム *Avances de las Investigaciones Arqueológicas de las Misiones Italiana y Japonesa* である。さらに、カリフォルニア大学(UCLA)よりナスカ研究者を招聘して国際講演会を山形で実施するとともに、円卓会議「Round Table Conference on Nasca」を開催した。また、山形市内で2つのナスカ地上絵に関する展示会を開催した。ひとつは山形県立中央病院「あおやぎギャラリー」で、もうひとつは文翔館「ナスカの地上絵展」である。後者には6,919名の来場者があった。会期中の週末には、展示解説を山形大学人文学部の学生が行い、好評であった。講義と演習では、世界の諸民族に関する事例を検討することで、文化人類学の基本的な考え方、民族誌の読み方と議論の仕方について扱った。また実習では、山形市内の礼拝所をめぐる調査(第2次)を実施した。なお *Informe Final del Proyecto de Investigación Arqueológica de las Líneas y Geoglifos de la Pampa de Nasca (Séptima Temporada)* は、平成26年度研究・教育活動報告に研究成果として掲載されているが、誤記であり、正しくは本年度の研究成果である。

### 佐藤 清人

#### (1) 研究成果

なし

#### (2) 教育・地域連携等の活動

##### 【担当授業科目】

前期: スタートアップ・セミナー 英語 R, 英語 C, 英米文学講読, 欧米文化演習, 英米文化論



後期：英語 R, 実践英語 (二), 文学概論, 基礎講義 (グローバル文化学)

【出張講義】

福島県立安積高等学校「太平洋戦争と日系アメリカ人—ジョン・オカダの小説『ノー・ノー・ボーイ』をめぐって」(平成27年11月28日)

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究は日系アメリカ文学における「自伝」をテーマに行ったが、論文作成までにはいたらなかった。教育に関して、基盤教育の英語では、例年どおり英語の時制や助動詞の使い方について重点をおいて指導した。専門教育では、一部の授業で文学作品の理解のために映画を利用し、学生には好評だったが、文学作品を直接読まずに理解する危険性を感じている。

鈴木 亨

(1) 研究成果

研究発表

- ・「創造的逸脱表現における動詞補部の解釈—Think different の構文分析から」, 日本英語学会第33回大会公開特別シンポジウム「日本の英語学者と語彙意味論研究」における講師発表 (関西外国語大学, 2015年11月)。

研究論文

- ・鈴木亨 (2015) 「創造的逸脱表現の認可をめぐって」『日本英文学会第87回大会 Proceedings』118-119.
- ・Toru Suzuki (2016) Review: Interpreting Motion: Grounded Representations for Spatial Language, *English Linguistics* 32: 2, 432-441.

(2) 教育・地域連携等の活動

- ・担当授業: 英語(C), 英語(R), 英語学特殊講義, 日英対照言語学講義, 教職実践演習 (英語), e-learning, 英語語法論特論
- ・模擬講義「Think different の言語学—逸脱か, 創造か?」(宮城県立富谷高等学校, 2015年10月)

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究面では、逸脱表現の文法と言語変化の関係について研究を進めた。教育面では、複数の授業で時間外の課題として多読レポートを課し、多面的な英語力の養成に努めた。

摂津 隆信

(1) 研究成果

論文：郷愁という名のイリュージョン —カール・ファレンティンの喜劇『騎士ウンケンシュタイン』について—

(「東北ドイツ文学研究」, 東北ドイツ文学会, 第56号, 15-33頁)

研究発表：Sumo, Judo und Wrestling – Am Beispiel von Rikidōzan und Masahiko KIMURA sowie dem japanischen Showbusiness–

(Vielheit und Einheit der Germanistik weltweit [Internationale Vereinigung für Germanistik VIII. Kongress], 中国〈同済大学〉)

劇評：フェルディナント・フォン・シーラッハ『TABU』上演

(「Brunnen」, 郁文堂, Nr. 495, 6-8頁)

(2) 教育・地域連携等の活動

第8回山形大学高校生朗読コンクール審査員

(3) 研究・教育活動に関するコメント

教育に関しては不断のマイナーチェンジが求められるものの、おおむね問題はなかった。学務と授業準備に追われて研究論文の本数が少なかったことが反省材料。

十川 陽一

(1) 研究成果

(論文)

- ・十川陽一「律令官人制の展開と地方支配」(『歴史学研究』937, 2015年10月)

(書籍)

- ・山下紘嗣, 十川陽一, 長谷山彰, 藤森健太郎, 中野高行, 川崎晃, 湯浅吉美, 加藤順一, 松田浩, 三宅和朗, 藤本誠, 久米舞子『法制と社会の古代史』(慶應義塾大学出版会, 2015年5月), 「地方における律令官人制の展開と受容—勳位を中心に—」を担当。

(学会発表)

- ・十川陽一「律令官人制の展開と地方支配」(歴史学研究会大会, 2015年5月)
- ・十川陽一「律令官人制の展開と受容—陸奥・出羽に関する基礎的考察—」(山形大学歴史・地理・人類学研究会 2015年6月)
- ・十川陽一「出羽国と律令国家—官人制と駒籠楯跡調査への期待—」(さあべい同人会 考古学研究発表会 2016年2月)

(2) 教育・地域連携等の活動

(専門教育)

日本史講義(3), 日本史演習(3), 日本史史料講読(3), 文化財調査実習(共同担当), 文化動態論(日本)(共同担当)

(大学院)

日本古代史特別演習

(地域連携等)

- ・山形史学研究会講演「律令官人制と地方支配—散位を通じてみた展開と受容—」, 講師, 2015年9月

- 山形県立楯岡高等学校, 大学出前授業「古代国家と東国の人々」, 講師, 2015年10月
- 山形県立米沢女子短期大学史学実習「律令国家と官人支配—ある官人を手がかりに—」, 講師, 2015年12月

(3) 研究・教育活動に関するコメント

自身のこれまでの研究を整理しながら, 出羽を中心とした東北古代史研究に着手し, 基礎的な考察を進めた。

山形県内を中心とする日本史・考古学の研究会等に積極的に参加した。

古代史教育の基礎を確立するべく, 講義・演習のほか, 勉強会も行っている。

**高橋 真彦**

(1) 研究成果

Takahashi, Masahiko. 2015. On improper movement and locality of Case-assignment in Japanese. 南山大学言語学センター第51回コロキウム (招待有り).

高橋真彦. 2016. 格付与と名詞句移動の局所性について: 日本語からの考察. 慶應言語学コロキウム (招待有り).

Takahashi, Masahiko. 2016. A note on improper movement and locality of AGREE in Japanese. Formal Approaches to Japanese Linguistics 7 (FAJL 8). Mie University.

(2) 教育・地域連携等の活動

担当授業: 英語 (R), 英語 (C), 実践英語 (三), 言語学演習, 基礎講義 (言語), 生成文法論特別演習, 生成文法論特論, 教員免許状更新講習 (英語)

**千葉 清史**

(1) 研究成果

論文

「物自体は存在するか」という伝統的な問題の解決によせて, 『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』第12号, 2015年。

「カント自由論における自我の二面性テーゼと二世界解釈との融和」, 『山形大学紀要(人文科学)』第18巻第3号, 2016。

「カントによる帰謬法的証明の拒否における哲学方法論上の洞察」, 『山形大学人文学部研究年報』第13号, 2006。

「超越論的論証の二種を区別する必然性」, 『東北哲学会年報』第32号, 2016。

学会発表

Ist der Raum aktual-unendlich?: Über den Raum als “eine unendliche gegebene Größe”, 12. Internationaler Kant-Kongress Wien, Universität Wien (Vienna), 2015年9月23日。

「超越論的論証: その本質と問題点」, 東北哲学会第65回大会, 福島大学 (福島), 2015年10月24日。Eine Verteidigung der traditionellen Unterscheidung zwischen der Zwei-Aspekte- und der Zwei-Welten-

Interpretation, 日本カント協会第40回大会, 共同討議 I: Zu einigen Problemen des Verhältnisses zwischen Ding an sich und Erscheinung bei Kant, 清泉女子大学 (東京), 2015年11月14日。

(2) 教育・地域連携等の活動

担当授業

ドイツ語 IA 1 /IIA 1 (人文・理学部向け)

ドイツ語 IA 2 /IIA 2 (工学部向け)

哲学演習 (一)

哲学講義 (二)

**富澤 直人**

(1) 研究成果

On syntactic structures of the head internal relative clause construction in Bengali, Bulletin of Yamagata University (Humanities) 18. 3, 101-121. (Coauthored with Forhad Jamila)

(2) 教育・地域連携等の活動

- 基盤教育：英語 R, 英語 C
- 学部：英語学概論, 英語学特殊講義, 英作文 (中級), 言語学総合講義, 卒業論文 (英語学)
- 大学院：英語学特論Ⅱ, 英語学特別演習, 言語科学特別研究Ⅰ (英語学)

**富田 かおる**

(1) 研究成果

“Visualization of vowel spaces in language learning”, International Conference on Phonetics and Phonology 2015, September, 2015, Keio University.

“Copious katakana usages”, The IAJS Journal 2015 Vol. 1, 33-40.

“Visualization for Learning Foreign Speech”, Bulletin of Yamagata University (Humanities) 18: 3, 1-14.

(2) 教育・地域連携等の活動

担当授業 言語学特殊講義, 英語学演習, 英語の教材分析 A, 英語 R, 英語 C

(3) 研究・教育活動に関するコメント

言語の生成を主なテーマとし、特に発話の音響分析を基に、英語母語話者と日本人英語学習者の母音特徴分析を行った。また、母音空間を用いた発音練習についてのアンケート調査を行い、学習者の興味と意欲が向上している事を確かめた。

## 中澤 信幸

### (1) 研究成果

#### 〔論文〕

- 日本語教育における台湾語音活用と「日台基本漢字」, 『台湾文學研究』 8 (台湾・國立成功大學台灣文學系), pp.11-41, 2015年6月

#### 〔口頭発表〕

- 台湾人日本語学習者と台湾語音 ―母語意識・居住地域等との相関から―, 天理台湾学会第25回記念研究大会, 2015年6月28日

### (2) 教育・地域連携等の活動

#### 〔担当授業〕

- 学部専門科目:日本語(一), 日本語学概論, 日本語学特殊講義, 日本語学演習, 日本語学講読, 近現代東アジア地域論(二), 言語学総合講義, 基礎講義(グローバル文化学), 人間文化入門総合講義
- 大学院科目:日本語史特論Ⅱ, 日本語史特別演習
- 基盤教育科目:日本語と他言語共生社会(共生を考える), 日本語音韻史入門(言語学)

#### 〔卒業論文〕

- 『吾輩は猫である』における女性語の使用
- 『古今和歌集』における縁語の構造を知る

#### 〔地域連携〕

- 井上ひさし『吉里吉里人』と方言意識, 山形大学都市・地域学研究所公開講座「山形の魅力再発見パート13」, 2015年10月3日
- 映像は語る——ドキュメンタリーに見る現代台湾の光と影, 山形大学人文学部附属映像文化研究所および台湾文化部主催による映画上映会・シンポジウム(コーディネーターを務める), 2015年10月9～11日

### (3) 研究・教育活動に関するコメント

台湾に滞在して行った研究の成果に基づいて, 論文執筆および学会発表を行った。また科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金, 基盤研究C(一般), 研究課題名:多言語併存状況下における台湾語の現状と変容, 課題番号:15K02501, 研究期間:平成27～29年度, 研究代表者:中澤信幸)に採択され, 新たな研究に着手した。加えて台湾ドキュメンタリー映画に関する上映会・シンポジウムを主催した。

## 中村 篤志

### (1) 研究成果

「書評:小沼孝博著『清と中央アジア草原:遊牧民の世界から帝国の辺境へ』」『歴史』125輯, 2015年10月, pp.75-83

「遊牧と移住のあいだ:20世紀前半期フルンボイル社会の動態から」岡洋樹編著『越境の東北ア

ジア——統治の動揺・地域流動化・共生』(投稿済み)

(2) 教育・地域連携等の活動

〔担当授業〕

主担当：文化動態論（アジア）、アジア史講義（二）、アジア史演習（二）前後期、アジア史史料講読（二）、基盤「モンゴル語の歴史（教養セミナー）」

分担担当：基礎（文化動態論）、国際文化学演習（前期）、基盤「グローバル社会に生きる君達へ」〔教育活動〕

1. 国際交流：人文学部異文化間コミュニケーション I in 台北のWGメンバーとして、説明会、合同街頭調査に向けた事前学習会、帰国報告会の企画・運営に当たった。
2. 国際文化学演習（前期）では、特別招待講師として社会人講師2名、本学留学生を招き講演／講義を企画した。その一環で佐藤知彰（丸十大屋社長）氏の講演会「和食を世界に」を企画、実施した（2015/ 7/30）。
4. 卒論指導4名。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

- ・山形大学優秀教育者賞を受賞した（学部の国際交流、学生の海外派遣を促進した一連の教育活動に対し。12/24）
- ・教育面では、前年に引き続き、台湾実習の企画・運営に関わったほか、国際文化学演習にて、アジアで働く駐在員や海外展開をする地元老舗企業、留学生などを招待し、海外キャリアや地域価値と世界展開、イスラーム文化理解をテーマに、実践的授業を行った。
- ・代表を務める基盤研究C「日記史料からみた清末のモンゴル王公と清朝支配」の調査・研究に従事した。

**中村 隆**

(1) 研究成果

近年の継続的な取り組みだったホガース（William Hogarth）の版画とディケンズ（Charles Dickens）とクルックシャンク（Gerge Cruikshank）の影響関係および相互関係を明らかにする論文を執筆した（学界の一流学術誌へ投稿済み）。

(2) 教育・地域連携等の活動

基盤教育の英語においては、ALCを主たる教材として用い、主として英語を使って授業をした。

専門教育の講義では、Shakespeare, Milton, Hogarth, Dickens, G. Eliotの主要な作品を論じた。演習では、平易で明晰な英文エッセイの朗読を取り上げ、それを音声で聞き、内容を説明できるような工夫をした。

地域連携では、人文学部の重点校であり、中村隆の担当である山形北高校の教頭先生と進路指導部長の先生と連絡を取り、当該校と人文学部における密接な連携を図った。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究面では長年の取り組みであった版画と文学に関する考察を一つの論文にまとめることができた。

基盤教育では、英語を用いて英語の授業をすることができたが、学生が英語で応答するという側面の実施は十分ではなかった。

専門教育では、英語のエッセイを読む前に、まず英語を聞いてその内容を理解するというこれまでにしてこなかったことに取り組み、英語の音声の重要性を学生に理解してもらうことができた。

英文学の専門教育としては、映画を通して英文学作品にアプローチすることにより、学生たちがより親しみをもって、英文学を受容できるように工夫した。

**西上 勝**

(1) 研究成果

[論文]

「黄賓虹と徐悲鴻の中国画論をめぐる」(『山形大学紀要(人文科学)』第18巻第3号,平成28年2月,31～53頁。

(2) 教育・地域連携等の活動

[担当授業]

専門教育：中国文学概論など

基盤教育：共通科目コミュニケーション・スキル2「中国語」

[地域連携]

10月の山形国際ドキュメンタリー映画祭に合わせ、人文学部附属映像文化研究所の主催により10月9日(金)から三日間にわたって開催された、「ドキュメンタリーに見る現代台湾の光と影」における一部講演の司会を務めるとともに、講演及びシンポジウムに係る資料作成に従事した。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

平成27年度発行の『日本中国学会報』第67集の編集に際し、掲載に応募のあった論文「『莊子』の寓話における演出的な叙述について」と題する原稿の査読と評価を担当した。

**福野 光輝**

(1) 研究成果

○紀要論文

福野光輝(2015)。「特集」山形市における安心・安全に関する学際的研究 本研究プロジェクトの概要. 山形大学大学院社会文化システム研究科紀要, 12, 49-50。

福野光輝・渡邊洋一・山田浩久(2015)。山形大学小白川キャンパス周辺における小学生保護者の不安経験と葛藤懸念. 山形大学大学院社会文化システム研究科紀要, 12, 73-84。

○分担執筆

福野光輝(2015)。実験. 眞嶋俊造・奥田太郎・河野哲也(編著)人文・社会科学のための研究倫



理ハンドブック, 慶應義塾大学出版会, 82-88。

福野光輝 (2016)。交渉研究 大淵憲一 (監修) 紛争・正義・暴力の心理学, 北大路書房, 88-108。

○学会発表

福野光輝 (2015)。対人ストレス対処と2次コントロール。北海道心理学会第62回大会 (北海道医療大学, 北海道石狩郡当別町, 2015年11月29日)

渡邊洋一・福野光輝 (2015)。視点の錯綜と通行危険感知。東北心理学会第69回大会 (東北文化学園大学, 仙台市, 2015年6月6-7日)

○講演

福野光輝 (2016)。SPSSによるデータ分析: 処遇にまつわる分析を中心に。仙台少年鑑別所拡大研究会 (仙台矯正管区, 仙台市, 2016年2月5日)

## (2) 教育・地域連携等の活動

○担当授業

「心理学特殊実験A」(前期・後期)

「心理学講義(二)」(前期)

「心理学実験」(前期)

「読んで読む心理学(教養セミナー)」(前期)

「社会心理学演習」(前期・後期)

○卒業論文指導

「道具使用における身体近傍空間の拡大をもたらす要因の検討: 視覚的連続性と触覚的連続性に着目して」

「アタッチメント・プライミングは対人葛藤において建設的な対応を促すのか」

「集団内競争・集団間競争が社会的比較に及ぼす影響」

「嘘の動機と結果の重大さが道徳性判断に及ぼす影響: 被害が大きければ利他的動機は考慮されなくなるか」

「パーソナリティは街中での話しかけに対する態度にどう影響するか」

「食品ブランドのコモディティ化脱却にストーリー・テリングは有用か: ストーリーの特性に着目して」

○大学院進学実績

東北大学大学院文学研究科 (2015年度卒業論文指導学生から1名)

○学会活動

日本社会心理学会学会誌「社会心理学研究」編集委員 (平成27年4月～現在)

日本社会心理学会学会誌「社会心理学研究」学会賞(論文賞)選考小委員会 (平成27年4月～平成27年10月)

○社会貢献活動

独立行政法人大学入試センター教科科目第一委員会 (平成26年10月～平成27年12月)

○出張講義

福野光輝 (2015)。はじめての心理学。(山形県立谷地高等学校, 山形県河北町, 2015年7月16日)

福野光輝 (2015)。新庄北高等学校研究室訪問プロジェクト受け入れ (2年生1名)

福野光輝 (2015)。はじめての社会心理学：心の社会性を探る。(山形大学オープンキャンパス模擬講義, 2015年8月1日)

## 本多 薫

### (1) 研究成果

#### 論文

- 1) 本多薫, 門間政亮: ナスカ台地におけるラインセンター間の移動について-最短経路と経路選択からの検証-, 山形大学大学院社会文化システム研究科紀要, 第12号, p. 1-14, 2015.
- 2) 渡邊洋一, 本多薫, 門間政亮: ナスカ台地の移動時における直線の地上絵とラインセンターの利用-ウェアラブルカメラを用いた分析-, 山形大学紀要 (人文科学), 第18巻3号, p.139-154, 2016.
- 3) 山田浩久, 本多薫: 山形大学周辺の小学校区における災害リスク認知の現状と課題, 山形大学大学院社会文化システム研究科紀要, 第12号, p.61-71, 2015.

#### 学会発表

- 1) 門間政亮, 本多薫: 読書中に流れる BGM に含まれる言語情報の無意識処理に関する検討, 日本人間工学会第56回大会講演集, 芝浦工業大学 (東京), p.358-359, 2015年06月13日
- 2) Yoichi Watanabe, Kaoru Honda and Tadasuke Monma: Usefulness of the lines and the line centers on Nasca pampa, Congreso Internacional de Americanistas Conflicto, paz y construcción de identidades en las Américas San Salvador del 12 al 17 de julio de 2015.
- 3) Kaoru Honda: Display Locations of Information on Wide Screen Display Devices, Proceedings 19th Triennial Congress of the International Ergonomics Association, Melbourne 9-14 August 2015.
- 4) 門間政亮, 本多薫: 音楽のテンポの違いが言語作業に与える影響-言語情報を含む音楽について-, 第11回日本感性工学会春季大会, 神戸国際会議場 (神戸市), 2016年3月26日

#### その他

- 1) 本多薫: 第2節 (第1章) 統計的手法 (p. 9-53), ビジネス・キャリア標準テキスト「生産管理2級 (共通知識)」, 渡邊一衛監修, 社会保険研究所, 平成27年4月発刊, ISBN 978-4-7894-9990-3
- 2) 本多薫: 第2節 (第1章) データの活用 (p.10-34), ビジネス・キャリア標準テキスト「生産管理3級 (共通知識)」, 渡邊一衛監修, 社会保険研究所, 平成27年4月発刊, ISBN 978-4-7894-9980-4

### (2) 教育・地域連携等の活動

#### 教育:

授業: (教養) 情報処理: (学部) 公務員対策セミナー, 人間情報科学概論, 基礎講義 (地域・人間), 情報処理演習, 情報科学演習, 情報科学実習, プログラミング演習

卒業研究の指導 (人間情報科学専修担当として指導):

- (a) 小学校から高等学校における情報教育カリキュラムの提案

- (b) スマートフォンを用いた拡張現実に関する研究
- (c) テレビゲームのコントローラーにおける使いやすい形状に関する研究
- (d) 大学生のネット依存の自覚と実態に関する検討
- (e) 「まとめブログ」の変容—書き込みの著作権—

地域貢献活動等：

- (a) 山形大学公開講座（人文学部）：世界遺産ナスカの地上絵「情報科学からナスカの地上絵を考える」, 平成27年6月8日
- (b) 日本人間工学会 理事（総務担当）, 代議員
- (c) 日本人間工学会東北支部 支部長
- (d) 日本経営工学会 代議員
- (e) 日本経営工学会東北支部 副支部長, 運営委員
- (f) 土木学会 地下空間研究委員会 心理小委員会 委員

(3) 研究・教育活動に関するコメント

平成27年度は、コンピュータ用のワイドディスプレイの情報表示に関する研究、ナスカの地上絵の情報科学（グラフ理論、視覚情報処理）の視点からの研究を進めた。また、教育としては、情報科学関連の講義を担当するとともに、共同で卒業研究の指導を行った。

**松尾 剛次**

(1) 研究成果

著書

単著

- ・中国語版『仏教入門』（山形大学出版会, 2016年3月）

共著

- ・遊学館ブックス『生きる道しるべ 老いと死と生』（財）山形県生涯学習文化財団（共著）, 2016年3月

論文

- ・「親鸞伝再考」『新潟親鸞学会紀要』10集, 2015年6月

研究発表

- ・2015年12月12日, 日本仏教総合研究学会の国際シンポジウムにおいて「関東祈祷所再考」と題して研究報告を行った。

その他

- ・書評「藤田恒春著『豊臣秀次』」『山形新聞』2015年4月12日
- ・記事「由比ヶ浜に墓域確立の跡」『読売新聞』2015年5月6日
- ・記事「にじむ義光の人柄 家臣宛て書簡発見」『山形新聞』2015年5月22日
- ・記事「寺子屋子ども大学特別授業『ナスカの地上絵を体験しよう!』を終えて」『うえるかむ』第62号 2015年6月17日発行
- ・TBS「所さんの日本の出番」2015年6月9日 PM 7:00出演

- NHK イーテレ「知恵泉」2015年7月7日 PM10:00出演
- 書評「新谷尚紀著『葬式は誰がするのか—葬儀の変遷史』」『山形新聞』2015年8月9日
- 出前講義岩手県立大船渡高校 2015年10月20日
- 記事「最上義光の新資料確認」『山形新聞』2015年12月5日
- 記事「最上義光研究が前進」『朝日新聞』2015年12月5日
- 書評「関雄二編『古代文明アンデスと西アジア神殿と権力の生成』」『山形新聞』2015年12月6日

## (2) 教育・地域連携等の活動

- 担当授業

専門教育では、日本史概論、日本史演習（二）、日本史講義（二）、日本史史料講読（二）。大学院では日本中世史特別演習、歴史文化特別研究Ⅰ、Ⅱを担当した。基盤教育では「宗教史入門」、「都市を通じて考える人間と歴史」、「古文書を楽しもう」を担当した。

- 卒論指導 以下の11本の卒論指導を行った。

「狐信仰始まりに関する一考察 —『日本霊異記』を中心に—

弘前藩の役割に関する一考察—蝦夷地警備を中心に—

『教行信証』の成立に関する一考察

奥州探題に関する一考察

都都古別神社についての一考察

慶長三陸地震津波に関する一考察—相馬地方を中心に—

稚児に関する一考察

奥州街道と宿駅に関する一考察—岩沼宿を中心に

律令国家の東北支配と柵戸

大聖寺（亀岡文殊）と寛文のさばき

最上氏改易までの経緯とその影響についての一考察

出前講義・模擬講義

- オープンキャンパス（2015年8月1日）において模擬講義「ジブリ作品と日本宗教史」を行った。
- 出前講義 岩手県立大船渡高校 2015年10月20日

〈地域連携〉

- NHK 文化センター仙台校講師、山交カルチャー講師を勤めた。
- 山形県生涯学習文化財団の「山形学」企画委員として山形学を企画・実施した。
- 大石田町まち・ひと・しごと創成有識者会議（2015年6月1日～2017年5月31日）委員長を勤めた。
- 都市地域学研究所の所長として、公開講座「山形の魅力再発見」（2015年9月5日、19日、10月3日）、講演「最上義光をめぐって」（2015年6月27日）、第5回安達峰一郎記念世界平和弁論大会（2015年11月14日）を主催した。
- 寺子屋子ども大学代表として以下の講座を主催した。

① 4月12日（日） 学習支援

- ② 4月26日 (日) 特別授業「最上義光を楽しもう！」
- ③ 5月10日 (日) 特別授業「ナスカの地上絵を体験しよう！」
- ④ 5月31日 (日) 企画相談会
- ⑤ 6月14日 (日) 特別授業「楽しい理科実験教室～光のワンダーランド」
- ⑥ 6月28日 (日) 企画相談会
- ⑦ 7月26日 (日) 特別授業「楽しい音楽教室」
- ⑧ 7月27日 (月) 活動報告会
- ⑨ 8月5 (水)～7日 (金) 置賜学舎夏休み寺子屋
- ⑩ 10月25日 (日) 特別授業「楽しい英語教室～英語の音に親しむ」
- ⑪ 12月26日 (土) 特別授業「楽しい書道教室」
- ⑫ 1月23日 (土) 山形県避難家庭心のケア事業 個別カウンセリング
- ⑬ 1月31日 (日) 福島帰還者訪問事業 (福島市)
- ⑭ 2月20日 (土) 山形県避難家庭心のケア事業 個別カウンセリング
- ⑮ 3月13日 (日) 特別授業「楽しい音楽教室」

### (3) 研究・教育活動に関するコメント

研究面では著書が単著1冊, 共著1冊, 論文が1, 学会での研究報告が1つで, 大いに頑張ったといえる。とりわけ, 中国語版『仏教入門』の刊行は, 中国語圏の人々の日本仏教理解に役立つと期待される。教育面では11本もの卒論指導を行い, 大変だった。地域貢献においても, 初めて大石田町の有識者会議の委員長となり, 「まち・ひと・しごと創成」プラン作成に莫大な時間をさいた。忙しかったが, 大石田町の魅力が再認識できて楽しかった。また, 都市地域学研究所の所長, 寺子屋子ども大学代表としての仕事も忙しく, 土・日がない状態であった。ことに, 安達峰一郎世界平和弁論大会は第5回となり, ようやく全国大会として名実ともに充実してきたのは嬉しい限りである。

### 松本 雄一

#### (1) 研究成果

##### 〔著書〕

1. 2015「第4章 神殿・儀礼・廃棄：聖なるモノとゴミとの間」 関雄二編『古代文明アンデスと西アジア：神殿と権力の生成』pp.167-208, 朝日新聞出版。

##### 〔論文等〕

1. 2016 Estudio de artefactos oseos del centrocerebral Formativo de Campanayuq Rumi, Vilcashuaman, Ayacucho. En Actas de Ponencias del V Simposio Nacional de Arte Rupestre Sinar "Eloy Linares Malaga." Ministerio de Cultura, Perú, editado por A. Bueno Mendoza, P. Van Dalen, Y. Cavero Palomino, H. Grados Rodriguez y R. Lazo Perez, pp.107-132. Lima: UNMSM. ユリ・カベロ, イルダ・ベジードと共著。

2. 2015「南部山岳地域, カンパナユック・ルミ遺跡：Sitio arqueológico de Campanayuq Rumi, sierra sur del Perú」, 『ペルー古代アンデス文明研究における日本人の貢献：Aporte Japonés a la

investigación de las Antigua Civilizaciones de los Andes del Perú』 pp. 110-111, 120-121, 在日本ペルー大使館。

3. Informe Final del Proyecto de Investigación Arqueológica de las Líneas y Geoglifos de la Pampa de Nasca (Séptima Temporada). (Masato Sakai, Yoshimitsu Ccoyllo, Jorge Olano, Yuichi Matsumoto, Atsushi Yamamoto) , 933p. , Ministerio de Cultura del Perú, Lima, 2015. 坂井正人, ホルヘ・オラーノ, ヨシミツ・ホイヨ, 山本睦との共著。

[学会・シンポジウム等口頭発表]

1. 2015 Chavín en la Costa y Paracas en la Sierra: Interacción Interregional durante el Horizonte Temprano. El fenómeno Paracas en el sur del Perú. 55 ICA, 13 de julio , Universidad Francisco Gavidia. San Salvador.

2. 2015 ¿Maquetas Representando Arquitectura Pública? : Nuevos Hallazgos desde Campanayuc Rumi Tradiciones tempranas de arquitectura pública de los Andes Centrales. 55 ICA, 13 de julio , Universidad Francisco Gavidia. San Salvador. ユリ・カベロ, ジェイソン・ネスビット, エディソン, メンドーサと共同発表。

3. 2015 Emergencia de la Cultura Paracas: Una Perspectiva desde Sierra Centro-sur del Perú. II Simposio de Arqueología, Avances de las investigaciones arqueológicas de las misiones italiana y japonesa. 5 de septiembre, Museo Antonini. Nasca.

4. 2015 「ペルー南海岸・インヘニオ谷における考古学調査」, 第20回古代アメリカ学会研究大会, 12月5日, 東京大学。松本雄一／坂井正人／ホルヘ・オラーノ (山形大学), ヨシミツ・ホイヨと共同発表。

5. 2016 「ペルー南高地の神殿：「周縁」から見た形成期社会」 公開シンポジウム「アンデス文明初期の神殿と権力生成」2016年1月31日 キャンパス・イノベーションセンター東京 (東京都港区)。

6. 2016 The Emergence of Paracas Culture in the Highland and the Tajo Problem. Nasca Roundtable 2016, March 3, 2016, Yamagata University, Yamagata.

## (2) 教育・地域連携等の活動

[担当授業]

### 1. 基盤教育

神殿と権力

### 2. 専門教育

文化動態論講義, 文化人類学概論 (二), 文化人類学講義 (二), 文化人類学演習 (三), 文化人類学演習 (四)

### 3. 大学院

人類学特論 I, 人類学特別演習

[講演]

「地上絵を作ったのはどんな人々だったのか：遺跡の分布からみるナスカ社会」山形大学公開講座「世界遺産ナスカの地上絵：学際的アプローチの成果と展開」2015年6月15日。

[その他]

山形大学ナスカ研究所において、ペルー人学生の調査指導を行った。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

「アンデス比較文明論」(科学研究費補助金・新学術領域研究)によって、ペルー南部インヘニオ河谷において、踏査を実施した。また、「周縁からみたアンデス文明の形成過程」(科学研究費補助金・若手 A)によって、ペルー南部アヤクチョ県で踏査を行った。

宮腰 直人

(1) 研究成果

論文

- 1 「『大石兵六夢物語』小考—鳥津重豪の時代と物語草子・絵巻」『アジア遊学190 鳥津重豪と薩摩の学問・文化』勉誠出版 140-150, 2015年10月
- 2 「舞の本『敦盛』挿絵考—明暦版と本問屋版を中心にして」『文化現象としての源平盛衰記』笠間書院, 371-383, 2015年05月
- 3 編著『〈曾我物語〉の絵画化と文化環境』人間文化研究機構国文学研究資料館, 2016年03月刊行予定

(2) 教育・地域連携等の活動

[教育活動]

〈担当授業〉基盤教育:〈物語〉としての絵巻・絵本—日本の物語文化の基層を探る(文学)学部専門教育:日本文学概論(一), 日本文化演習, 日本文学講読, 国語の教材分析 A, 日本古典文学講義 大学院科目:日本古代中世文化論特別演習

- 卒論指導:日本古典文学専攻4名の卒業論文を指導した。
- 教員免許状更新講習「国語教材の研究」(2015年8月4日)の講師をつとめた。

[地域貢献活動]

- 1 出張講義:大学出張講義(國學院大學栃木高等学校), 2015年06月20日
- 2 出張講義:大学・短期大学模擬講義(新潟市立万代高等学校), 2015年06月24日
- 3 出張講義:出前講座「〈浦島太郎〉を研究する方法—龍宮城ってどんなところ?古典文学への招待」, 2015年10月9日
- 4 特別講義:「四季耕作図と稲作文化」, 山形の稲作文化に学ぶ日台交流超短期研修プログラム」, 2016年2月22日

(3) 研究・教育活動に関するコメント

- 研究面では、科研の支援を受け、東北の語り物文芸(奥浄瑠璃)の研究に着手することができた。教育面では、出張講義や教材研究の授業によって、古典文学への導入・学習法に積極的に取り組む機会を得た。今後も試行錯誤を重ねたい。



## 元木 幸一

### (1) 研究成果

(論文) 『《ヘント祭壇画》の不思議—フェン・エイクの新しい絵画世界』『ネーデルラント美術の魅力 ヤン・ファン・エイクからフェルメールへ (北方近世美術叢書 I)』ありな書房, 2015年12月, 9~47頁。

### (2) 教育・地域連携等の活動

#### (教育)

授業: 美術に見る男女の共生/競生/狂生 (共生について考える), 笑顔の秘密, 芸術文化概論, 芸術文化特殊講義, 美術史演習, 美学・芸術学演習, 芸術文化実習, 基礎講義 (文化解釈学, オムニバス), 表象文化論 (美学・芸術学) 特論, 美学芸術学特論

#### (卒業論文指導)

「アルブレヒト・デューラー《1500年の自画像》に関する考察」「パウル・クレー作《11人のグループ (Gruppe zu elf)》(1939年) について」「室内からの鑑賞による庭園の切り取り」「勝川春章《婦女風俗十二ヶ月図》にみる雅と俗」

#### (地域貢献)

- ・「聖母・魔女・お姫様: 西洋美術に見る女性像」NHK 文化センター仙台教室, 2015年4月
- ・「笑うフェルメールと微笑むモナ・リザ」NHK 文化センター盛岡教室, 2015年4月
- ・「笑顔の秘密」山形北ロータリークラブ, 2015年5月
- ・「笑顔の秘密—笑いの美術史」放送大学山形学習センター, 2015年6月
- ・「我家の秘物 鏡と春画」小川とびきり会, 2016年3月

### (3) 研究・教育活動に関するコメント

雑務に追われ卒論指導などが不十分だったので, 学生たちに申し訳なかった。授業は雑務の息抜きのようになり, 予習は十分ではなかったが, むしろ生き甲斐のようになり, 私はたいへん楽しかった。学生はどうだったんだろう。

論文を一つ書いたのは意地のようなもの。ただし, 暇を見つけての論文執筆も楽しい時間だった。くわえて科研一年目にあたり, ドイツに2週間程美術調査に出かけたのも有意義だった。忙しい時期に出張を許してくださった学部長に感謝したい。

## 森岡 卓司

### (1) 研究成果

#### [口頭発表・単独]

1. 森岡卓司「〈純粹手紙〉と「笑ひ」—樋口一葉「軒もる月」試論—, 平成25年度日本近代文学会東北支部夏季大会 平成27年7月4日 米沢女子短期大学

#### [パネル代表者・基調報告・司会]

1. 森岡卓司, 仁平政人, 山崎義光, 高橋秀太郎「1940年代の東北表象と地域文学運動」, 2015年度日本近代文学会秋季大会 平成27年10月25日 金沢大学

[記事]

1. 森岡卓司「やまがた再発見」290. 武田正 上, 291. 武田正 下, 『山形新聞』 平成28年2月7日, 14日
2. 山新文学賞「選考経過」, 『山形新聞』 平成27年4月19日, 5月17日, 6月21日, 7月19日, 8月16日, 9月19日, 10月18日, 11月15日, 12月20日, 平成28年1月24日, 2月21日, 3月20日

(2) 教育・地域連携等の活動

[出張講義]

1. 福島県立橋高等学校 (平成27年10月29日)

[公開講座]

1. 森岡卓司・高橋由貴「村上春樹のふしぎ」, 河北 TBC カルチャーセンター講座, 平成27年4月11日, 5月9日, 7月18日, 9月12日 (森岡担当回) 河北 TBC カルチャーセンターエスパル教室
2. 森岡卓司「疎開文学者の見た「東北」と「もうひとつの日本」—太宰, 横光, 吉本—, 第25回山寺芭蕉記念館文化セミナー「東北再発見2」 平成27年8月23日 山寺芭蕉記念館
3. 森岡卓司「吉本隆明の初期世界」, 寒河江市立図書館「シリーズ山形の文学を探る」第2回 平成27年9月25日, 寒河江市立図書館

[講演]

1. 森岡卓司「ことばの「倍音」」, 第39回山形県高等学校総合文化祭芸芸専門部大会全体講演, 平成27年10月9日 山形市霞城公民館
2. 森岡卓司「文学で何にであえるか?」, 山形県立新庄北高等学校図書館読書講話, 平成27年11月26日, 新庄北高等学校

[論文指導]

修士論文1名, 卒業論文4名

[授業担当]

「初期村上春樹の世界(文学)」ほか基盤教育科目2, 「日本文学演習」ほか専門教育科目7, 「日本近現代文化論特別演習」ほか大学院担当科目2 (と特別研究)。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

次年度に向けた原稿をいくつか提出し, 全国学会を含む口頭発表を行ったが, 前年度に引き続き研究活動が停滞した。科研費共同研究期間を無事終え, その成果に関して招待発表の招きを受ける(次年度)などそこそこの評価を得た。

学会活動としては日本近代文学会東北支部運営委員, 日本比較文学会東北支部事務局長, 日本文芸研究会常任委員, 日本文学協会委員。

管理運営上の業務として, 目標評委員会とそれに付随する部会のメンバーとなった他に, 広報委員会(HP部会), [学部に関わる業務] 1を担当し, さらに改組に関わって複数のWGに加わった。映像文化研究所の所員として活動し, シカゴ大学ポーダッシュ教授を招いての国際学術講演会をコーディネートした。

上記以外の教育活動として、平成23年度より実施している日本近代文学東北インカレゼミ（平成22年は山形大学単独の自主ゼミとして実施）を、本年度は岩手県で開催、学生が企画運営を担当する補助を行った。福島大、東北大、弘前大、盛岡大、東京大からの参加があった。

地域連携等の活動に精力的に取り組んだ一年でもあったが、上記の他に、山形大学が行う朗読コンテストの審査員を、平成27年度も継続して務めた。台湾師範大学の研修訪問に際して、「日本近代文学の中の東北・農村」と題した講義を行った。

一年中会議と打ち合わせの印象ばかり残る年度であったが、大学院生は優れた修士論文を提出した。

## 山崎 彰

### (1) 研究成果

「ブランデンブルク農村史研究の課題—近世農地制度と農業協会の設立をめぐる」『歴史と経済』230号（2016年1月）

「19世紀ブランデンブルク貴族家における世襲財産制の導入」『社会経済史学』81巻4号（2016年2月）

「19世紀ブランデンブルク近代村落の形成—フリーデルスドルフ村を事例に（1）」『山形大学歴史・地理・人類学論集』17号（2016年3月）

### (2) 教育・地域連携等の活動

#### ・基盤教育

「ヨーロッパ史における共生と環境」（基幹科目）、「近代ヨーロッパ国家の多様なかたち」（教養科目）

#### ・専門教育

「文化動態論基礎」「文化動態論（ヨーロッパ）」「ヨーロッパ史講義（二）」「ヨーロッパ史演習（二）」「ヨーロッパ史英書講読（二）」「卒業論文」。

以上の他に山内勸東海大山形高元校長らによる「教職実践演習」、許時嘉准教授らによる「異文化間コミュニケーションⅠ」（台湾・中国語研修）、伊藤豊教授らによる「異文化間コミュニケーションⅠ」（フィリピン・英語研修）にも協力した。

2015年10月9日～11日には、許時嘉准教授を中心として企画した「ドキュメンタリーに見る現代台湾の光と影・映像は語る」の実施に協力した。山形国際ドキュメンタリー映画祭の協力企画として、11本の映画上映、映画研究者によるシンポジウム、監督トークなどを実施した。

### (3) 研究・教育活動に関するコメント

10数年来取り組んでいるブランデンブルク農村史に関する実証的研究の一部を発表することができた。

また、学生たちの台湾研修、フィリピン研修に同行するとともに、台湾師範大学、サン・カルロス大学の研究者と学術交流をした。

## 山田 浩久

### (1) 研究成果

#### 著作

インバウンド観光に向けた地域資源の発掘と検証。単著。山形大学人文学部叢書9。  
まちづくりのための中心市街地活性化—イギリスと日本の実証研究。共著。古今書院。

#### 学術論文

山形大学周辺の小学校区における災害リスク認知の現状と課題。共著。山形大学大学院社会文化システム研究科紀要。12。

山形大学小白川キャンパス周辺における小学生保護者の不安経験と葛藤懸念。共著。山形大学大学院社会文化システム研究科紀要。12。

#### 学会発表及び講演

地域と文化が子供を育てる。招待講演。山形市 PTA 連合会

山形県上山市における学生の観光まちづくり提案。シンポジウム報告。日本地理学会

### (2) 教育・地域連携等の活動

#### 担当授業

- ・人文地理学概論, 地域構造論, 地誌学, 地域構造論演習, 都市地理学調査実習, 地域の共生, 他

#### 学外の審議会, 委員会

- ・国土交通省, 東北ブロック地理空間情報産学官地域連携協議会委員
- ・山形県 CCRC 検討委員会委員長
- ・山形市都市計画マスタープラン研究会委員
- ・山形市都市計画道路外部検討委員会委員
- ・山形市まなび館事業者審査委員会委員長
- ・山形市にぎわい拠点整備事業審査委員会委員長
- ・長井市まちづくり基金審査委員会委員
- ・山辺町総合戦略有識者会議座長

### (3) 研究・教育活動に関するコメント

山形県内のまちづくり関連の研究に携わり, 成果を残すことができた。研究成果は COC 事業の支援を受け, 学生教育にも反映させた。

## 吉井 文美

### (1) 研究成果

#### [著書]

- ・胡春恵・劉祥光主編『2014兩岸三地歴史学研究生研討会論文集』(国立政治大学歴史系, 2015年), 担当箇所: 吉井文美「中日戦争期中日英対江海関問題之交渉(1937-1938)(日本語訳: 日中戦

争期上海海関をめぐる日英中の交渉 1937-1938)」

[論文]

- 吉井文美「日中戦争初期における日本の対中国海関政策とその反応—日英関税取極めに至る交渉過程—」『山形大学歴史・地理・人類学研究会』第17号（2016年3月）

[学会報告]

- 吉井文美「1930年代華北支配势力的変遷与在華英人的反応（日本語訳：1930年代華北における支配者の変化と在華イギリス人の反応）」二十世紀三四十年代的華北国際学術研討会（中国・河北大学，2015年6月）

[その他]

- 吉井文美『1930年代華北におけるガバナンスの変更と在華イギリス人の反応』（富士ゼロックス株式会社 小林節太郎記念基金 小林フェローシップ2013年度研究助成論文，2015年）
- 新刊紹介，外務省編『日本外交文書 昭和期Ⅲ』昭和十二～十六年 第一巻・第二巻『史学雑誌』124編4号（2015年4月）

[受賞]

- 第2回史学会賞受賞

## (2) 教育・地域連携等の活動

[担当授業]

- 基盤教育：日本近代史料講読入門（教養セミナー）
- 専門教育：日本史史料講読（一），日本史演習（一）（前期）（後期），日本史講義（一），文化動態論（日本），人間文化入門総合講義
- 大学院：日本近代史特論Ⅱ

[社会連携等]

- 第53回東北社会科教育研究協議会（中学校）山形大会で発表する，山形市立金井中学校黒坂啓太教諭の社会科学習指導案（歴史的分野）を監修。
- 「山形の稲作文化に学ぶ日台交流超短期研修プログラム」（2016年2月15日～24日）にて，「米と女兒節人偶（日本語訳：米と雛人形）」の授業を担当。

## (3) 研究・教育活動に関するコメント

- 「山形の稲作文化に学ぶ日台交流超短期研修プログラム」では，台湾国立師範大学台湾史研究所・台湾語文学系の院生・学部生16人に対して，中国語で日本史の授業を行う機会を得，研究・教育の双方において貴重な経験になった。中国語の校正などでお力添えを頂いた許時嘉先生に厚くお礼申し上げる。

## RYAN, Stephen

### (1) 研究成果

[論文]

2015 Ryan, S.B. Cultural Diplomacy in International Relations: understanding hidden bias in cultural

knowledge. 山形大学紀要 (人文科学), 第18巻, 2号. pp. 63-86.

2015 Ryan, S.B., Morita, M. and Suzuki, J. A. Basic Approach to the TOEIC Test, Getting the Point of Strategies. Tokyo: Shohakusha Press.

[発表]

2016. 2 Presentation, The Era of President Andrew Jackson (1767-1845). Japan Association of Language Teachers (JALT). Yamagata city, Yamagata Chapter.

2015. 5 Ryan, S.B. Theodore Roosevelt (1856-1919). 国際日本文化研究会 (IAJS), 山形市.

2015. 6 Ryan, S.B. Cultural Schema as a Source of Cross-Cultural Friction, The 5th Asian Conference on Psychology & Behavioral Sciences, International Academic Forum (IAFOR). 大阪府立国際会議場, 大阪市.

## (2) 教育・地域連携等の活動

英語コミュニケーション (上級), 英作文 (上級), 英語 C, 英語 R, 異文化間コミュニケーション I, II.

## (3) 研究・教育活動に関するコメント

My research interest intersects with Intercultural Communication and Cross-Cultural Psychology.

## 渡辺 文生

### (1) 研究成果

《学会, 研究会などの口頭発表》

渡辺文生「講義の談話におけるトピック・センテンスの聴解について」2015 CAJLE Annual Conference, Simon Fraser University, Vancouver, 2015. 8.20

渡辺文生「物語談話において言語化しにくい指示対象にどう言及するか?」2016 AATJ Annual Spring Conference, Seattle, 2016. 3.31

《出版物》

渡辺文生 (2015)「論説的な文章・談話における文末表現の使われ方について」阿部二郎・庵功雄・佐藤琢三 (編)『文章・談話研究と日本語教育の接点』pp.179-199. くろしお出版

渡辺文生 (2015)「講義の談話におけるトピック・センテンスの聴解について」『2015 CAJLE Annual Conference Proceedings』pp. 358-367. カナダ日本語教育振興会

### (2) 教育・地域連携等の活動

担当授業は, 言語学総合講義・日本語学文法講義・日本語学特殊講義・日本語学講読・日本語学演習・日本語 (二)《以上学部専門科目》, 国語の教材分析 A・教職実践演習 (中学校・高等学校) 国語《以上教職科目》, 日本語意味論特論・特別研究《以上大学院科目》, ことばの意味 (言語学)・日本語上級 2《以上基盤教育科目》。地域貢献等の活動としては, 教員免許状更新講習 (2015. 8. 3), 福島県立会津学鳳高等学校での出張講義 (2015.10.16), 山形東高等学校「山東探求塾」の研究室訪問への対応 (2015.11.9) などを行った。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動については、研究代表者として関わる基盤Cの科学研究費プロジェクトの研究を中心に学会発表等を行った。そのほか、2件の科学研究費プロジェクトに研究分担者として従事した。教育活動については、日本語学の卒業論文（2名）、および修士論文（1名）の指導を行った。

**渡辺 将尚**

(1) 研究成果

なし

(2) 教育・地域連携等の活動

平成27年10月16日 山形県立新庄北高等学校にて模擬講義（タイトル：「なぜ文化は多様でなければならないのか——グローバルという視点から見る多文化共生」）

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究面では、論文化には至らなかったが、同時代の他国との関係や比較から、ナチズムに新たな光を当てる試みを継続して進めている。次年度は、それらの成果を積極的に公表する年としたい。

**【法経政策学科】**

**赤倉 泉**

(1) 研究成果

特に無し

(2) 教育・地域連携等の活動

**【教育】**

教養教育科目：中国語

専門教育科目：政治学入門，アジア政治論，アジア政治論演習

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究面では成果が出せなかったので次年度に向けて努力したい。教育面では、学生に興味をもたせるために時事問題などを広く取り入れ、視聴覚教材を利用するなど工夫した。

**阿部 未央**

(1) 研究成果

- ・（論文）「非正規労働とジェンダー—賃金制度を手がかりに」浅倉むつ子編『ジェンダー法研究』第2号55-68頁，信山社，2015年12月



(2) 教育・地域連携等の活動

[教育] 労働法, 社会保障法, 労働法演習, 少子化を考える, スタートアップセミナー, 公務員講座

非常勤: 東北学院法科大学院にて社会保障法, 東北学院法学部にて社会保障法

[地域連携]

- 山形県医療審議会委員
- 山形県労働委員会公益委員
- 外部講師 山形県労働委員会主催 第14回判例研究会 (2016年2月)

(3) 研究・教育活動に関するコメント

来年度の学会報告に向け、「正規・非正規間の合理性の解釈指針—イギリス法を手がかりに」の研究を進めた。労働法ゼミでは、秋に5大学参加の合同ゼミ合宿に参加し、「ブラックバイト」に関する報告を行ったところ、最優秀賞をとることができ、ゼミ生たちの自信と学習意欲向上につながっている。

**池田 弘乃**

(1) 研究成果

[論文] 「フェミニズム」, 瀧川裕英・大屋雄裕・谷口功一編『逞しきリベラリストとその批判者たち』(ナカニシヤ出版, 2015年), 157-166頁。

[翻訳] ドゥルシラ・コーネル (吉良貴之・仲正昌樹監訳) 『自由の道徳的イメージ』(御茶の水書房, 2015年), 第3章「他者としてのシンボル形式」123-170頁。『スクリプナー思想史大事典』(丸善出版, 2016年), 「正義・概観」「急進派・急進主義」の項目を担当。

[研究報告] 「判例評釈: 静岡地方裁判所浜松支部平成26年9月8日判決」(東北大学公法判例研究会, 2015年9月12日), 「性の平等をめぐる法と政治」(日本政治学会・分科会, 2015年10月11日, 於千葉大学)。

(2) 教育・地域連携等の活動

[担当科目] (専門) 私法入門, 法経政策専門基礎演習, 法哲学, 法哲学演習。(基盤) 「ジェンダーと法」入門 (法学)。

[地域連携等]

(講演等) 栃木県連合戸籍住民基本台帳事務協議会合同研修会 (2015年7月22日), 山形大学オープンキャンパス (2015年8月1日), 山形市男女共同参画センター・ファアラ (2015年9月8日), 福島県立橋高等学校 (出張講義, 2015年10月29日)。

(審議会等) 山形県男女共同参画審議会委員 (継続), 白鷹町男女共同参画計画策定委員会委員長 (2015年12月~2016年3月)。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

再婚禁止期間と夫婦同氏制度についての最高裁判決を検討する合同ゼミに加えていただく幸運

を得た。憲法学，民法史，法哲学と様々な観点から問題に迫り，学生にとって貴重な刺激となったことは勿論だが私自身にとっても教育方法を省みる得難い経験となった。

## 和泉田 保一

### (1) 研究成果

#### ・学術論文

「予防法学—都市計画における住民参加についての一考察」都市住宅学第91号79-83頁

#### ・判例・研究報告

名古屋高裁金沢支部判平成27年6月24日（平成26（行コ）8号）判例集未登載（東北大学公法判例研究会，10月）

「国地方係争処理の日英比較」（「国家と法」研究会，2月）

### (2) 教育・地域連携等の活動

#### ・担当授業

行政法Ⅰ，行政法Ⅱ，行政法演習，総合講座Ⅰ（「条例による地域政策」）・Ⅱ（「行政法」），情報処理，人文学部公務員対策講座（集団討論2コマを担当）

#### ・地域連携活動

[審議会等委員]

山形県情報公開・個人情報保護審査会委員（継続）

山形県議会情報公開・個人情報保護審査会委員（継続）

山形広域環境事務組合エネルギー回収施設建設及び運営事業技術審査委員会委員（～11月）

山形大学医学部倫理審査会委員（継続）

山形大学 COI 社会システム研究委員会委員（継続）

[外部研修講師]

国土交通省北陸地方整備局職員研修「法律」（7月）

山形市役所職員研修「行政法」（9月）

山形市役所職員研修「政策法務」（2月）

### (3) 研究・教育活動に関するコメント

新たな試みとして，公共政策ゼミと合同でゼミ合宿を実施した。今後とも，学生の様々な要望に耳を傾けてゆこうと思う。

論文執筆が少なかったようにみえるが，11月に脱稿した論文（共著）の刊行も控えている。また，公益財団法人都市住宅学会より依頼されて小論を執筆したことは，分野違いの読者を意識せざるを得なかった等これまででない経験となった。

## 岩田 浩太郎

### (1) 研究成果

[編著書]

- ・『柏倉家ものがたり』(編集及び単著, NPO 法人柏倉家文化村発行, B 5 版全50頁, 2016年 3 月[平成27年度やまがた社会貢献基金(山形県 NPO 活動促進補助事業)による刊行])

[講演・講座]

- ・町民歴史講座「史料が語る 村田紅花商人のあゆみ」(山形大学人文学部岩田研究室と宮城県柴田郡村田町歴史みらい館の共催) 講師を担当。全 9 回・定員30名, 於村田町中央公民館会議室・村田町歴史みらい館研修室。2015年 6 月27日第 1 回「村田商人の歴史像」/ 7 月11日第 2 回「京都—紅花の販売と交渉の努力—」/ 8 月22日第 3 回「輸送—村田から上方への交通システム—」/ 9 月26日第 4 回「藩の規制—仙台藩の政治と村々の抵抗—」/ 10月24日第 5 回「集荷・注文・出荷—商業実務と広がる取引関係—」/ 11月28日第 6 回「経営—帳簿管理と商業金融—」/ 12 月19日第 7 回「情報—紅花商人の書状の世界—」/ 2016年 1 月23日第 8 回「地域社会—飢饉救済と紅花生産者—」/ 2 月20日第 9 回「雛人形—紅花交易と文化—/まとめ」。各回とも土曜日午後 1 時30分~ 3 時30分。
- ・「柏倉九左衛門家と紅花」(寒河江市民講座「寒河江さくらんぼ大学 もっと学ぶ歴史学部」の移動講座「紅花と最上川舟運」における講演, 2015年10月10日, 於柏倉九左衛門家主屋座敷)
- ・「地域史を学ぶ—山形を事例に—」(山形県高等学校社会科教育研究会村山支部日本史部会研修会における講演, 2015年11月12日, 於山形大学人文学部208教室)
- ・「『柏倉家ものがたり』の刊行と内容」(平成27年度やまがた社会貢献基金(山形県 NPO 活動促進補助事業)「柏倉家ものがたり」発表会, 2016年 3 月27日, 於柏倉九左衛門家北蔵)

[外部資金]

- ・科学研究費補助金・基盤研究 C 「近世近代地方商人の経営と地域経済構造—宮城県村田町を事例に—」(研究代表者), 研究期間2015年 4 月~2019年 3 月。
- ・三菱財団人文科学研究助成「被災蔵古文書資料の保存整理と調査研究—宮城県柴田郡村田町の旧家文書を対象に—」(研究代表者), 研究期間2013年10月~2016年 3 月(半年間の研究期間延長を許可される)

## (2) 教育・地域連携等の活動

[担当授業科目]

- ・基盤教育科目: 基幹科目「歴史にみる共生」(共生を考える)
- ・専門教育科目: 日本経済史, 地域経済史, 日本経済史演習, 法経政策専門基礎演習
- ・大学院教育科目: 日本近世史特論 II, 日本近世史特別演習, 歴史文化特別研究 I

[委員会活動, その他]

- ・全学: 入学試験実施会議委員, 大学入試センター試験小白川地区試験場会議委員, 研究活動の不正行為に関する告発受付窓口の責任者
- ・学部: 学部入学試験委員会議長(副委員長), 経済経営系人事調整委員会委員, 高校訪問重点校(仙台第三高等学校) 担当, やまがた地域社会研究所所員

[非常勤講師]

- ・放送大学卒業研究指導非常勤講師(2015年 4 月~2016年 3 月)

[出張講義・展示協力・地域での報告会など]

- 山形県立鶴岡南高等学校への出張講義（2015年9月18日、講義「山形の地域史」）。
- 山形大学附属博物館プレオープン展のパネル「歴史文化を活かした地域活性化事業」作成に協力
- NPO 法人柏倉家文化村主催：山形大学人文学部日本経済史ゼミナール共同研究発表会「江戸前期の柏倉家の経営」「柏倉家一族の相互救済講」（2016年3月13日、於柏倉九左衛門家長屋門上座敷）

〔社会活動〕

- 山形市社会教育委員（副代表。2012年～）
- NPO 法人「柏倉家文化村」顧問（2006年～）
- 奥羽史料調査会世話人（2002年～。宮城県柴田郡村田町大沼正七家文書整理・目録作成・調査研究など）
- 財団法人三浦新七博士記念会・三浦記念賞選考審査会審査員（2012年4月～）
- 村田町伝統的建造物群保存地区保存審議会委員（2013年12月～）
- 山形県事業・やまがた社会貢献基金「『柏倉家ものがたり』の編集発行」調査研究員（2015年6月～2016年3月）
- 柏倉九左衛門家・柏倉惣右衛門家・柏倉九郎兵衛家・柏倉政右衛門家所蔵古文書資料の整理保存及び目録作成・調査依頼への対応
- 山形市の旧家による歴史資料の相談への対応
- 宮城県村田町の旧家からの古文書調査依頼への対応
- 新潟県新潟市の旧家からの古文書調査依頼への対応
- 日本科学者会議山形支部事務局長（2013年5月～2015年5月）
- 『大人の休日倶楽部』（JR 東日本会員誌）2015年6月号（通巻86号）「特集山形県 時代を彩る紅の道を辿る」監修。
- 『河北新報』2015年7月12日付宮城版紙面及び On-line News「紅花交易の歴史学ぶ 村田で連続講座」への取材協力・校正
- 『朝日新聞』2015年7月15日付全国紙面別刷「be」特集「みちのものがたり 万世大路 見棄てられた峠道を愛す」への取材協力・校正
- 『河北新報』2016年2月24日付宮城版紙面「ひな人形の変遷 紅花交易が影響 村田で連続講座」への取材協力
- 『河北新報』2016年3月20日付宮城版紙面及び On-line News「〈紅花商人と雛 村田蔵の古文書から下〉 商人気質 リスク考え広域化」への取材協力
- 『朝日新聞』2016年3月29日付山形版紙面「かやぶき母屋、冊子に 江戸期の大庄屋・中山町の柏倉家 歴史・地域での役割つづり」への取材協力
- 『山形新聞』2016年3月29日付山形広域版紙面「中山町の大地主 柏倉家の物語 読み解く NPO 法人 屋敷の保存・活用へ冊子」への取材協力

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究及び地域連携活動では、まず今年度も採択された三菱財団人文科学研究助成により、宮城

県柴田郡村田町の古文書資料の保存整理活動を継続した。また、文化庁の村田町文化遺産活用地域活性化事業調査研究員として昨年度に刊行した史料集『村田紅花商人文書－翻刻と解説－』を活用して村田町民（一部の他市町民も参加）向けに町民歴史講座（全9回）を開催し、講師を務めた。宮城県では初めて国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された村田町の「蔵の町並み」をつくった村田商人の歴史に関する町民の理解を深め文化財への関心を高める試みであり、また歴史文化を活かした町づくりについて受講生と議論をおこなった。関連して『河北新報』による取材に協力した。

一方、10数年調査を継続している山形県東村山郡中山町岡の柏倉家（本家・分家）に関わり、NPO法人柏倉家文化村の諸活動への協力をおこなった。今年度も同法人が「やまがた社会貢献基金」の採択を受け、柏倉家の歴史と保存活用の現状についてまとめたテキスト『柏倉家ものがたり』の編集執筆を依頼され、同書を刊行した。その報告会も開催した。また、柏倉家の分家の調査を広げることができた。

また、山形県高等学校社会科教育研究会の研修会や寒河江さくらんぼ大学、放送大学の講師を務め、高校教諭の研修と生涯教育にあたった。

教育活動では、4名の大学院生の指導教員（副）として、大学院授業を担当した。

委員会活動では、全学及び学部の入試委員として大学入試センターや学部の前期・後期日程試験の準備をおこない、監督者・整理員への説明会を含め諸実務を統括した。

社会活動では、今年度も山形市社会教育委員や三浦記念賞選考審査会審査員を務め、山形市の生涯教育振興や産業界の懸賞に関わった。

## 小笠原 奈菜

### (1) 研究成果

[口頭報告]

「情報提供義務による契約当事者の信頼の保護—損害としての「高値取得」」2015年6月 国際取引法研究会（於 専修大学）

「情報提供義務による契約当事者の信頼の保護—損害としての「高値取得」」2015年7月 東北大民法研究会（於 東北大学）

「情報提供義務による契約当事者の信頼の保護—損害としての「高値取得」」2015年10月 日本私法学会（於 立命館大学）

「NHK受信契約に関する諸問題」2015年12月 ネットとうほく消費者被害事例ラボ（於 仙台弁護士会館）

[その他]

「消費者法情報」現代消費者法28号124-126頁（2015年9月）

### (2) 教育・地域連携等の活動

[担当授業科目]

- ・専門教育科目：契約法入門，債権各論，親族法，専門基礎演習，民法演習（オムニバス方式）総合講座Ⅱ（法律），公務員試験対策セミナー

・大学院：副主任

[地域連携]

山形県消費生活審議会委員（副委員長）

山形県個人情報保護運営審議会委員

山形県公益認定等審議会委員

消費者市民ネットとうほく検討委員会委員

山形県税理士会主催研究会講師「民法（債権法）改正の現状 - 債権譲渡を中心として-」2015年9月9日

### (3) 研究・教育活動に関するコメント

研究については、日本私法学会で口頭報告をすることができた。その反面、学会報告の準備のために論文執筆ができなかったのが反省すべき点である。学内の委員（教務委員）の仕事にもかなり時間を取られてしまった。

地域連携について、消費者問題、とりわけ、唯一の空白地帯である東北地方に適格消費者団体を設立する活動を続けるとともに、地域の方々への理解を深めるための講演をすることができた。

教育について、卒論執筆学年の演習担当学生6名を含め全体で17名で演習を行なったため、一人一人の発言時間が少なくなってしまった。多様な見解に接することができる面では良いが、発言機会が増えるよう工夫が必要である。

講義については、人員不足のためほぼ専門外の講義（親族法）を担当することとなり大変だった。ただ、平成27年度は親族法分野で注目される最高裁判決が相次いで出され（再婚禁止期間違憲判決、選択制夫婦別姓判決）、学生の関心も高い時期に担当できたことは良かった。

## 金子 優子

### (1) 研究成果

論文

『行政委託型法人等の収入分析—平成16年と平成23年のデータを用いて—』

山形大学紀要（社会科学）46巻 1号, 2015年7月

研究

『公益法人を巡る改革が公益法人の活動に及ぼす影響の定量的分析・評価に関する研究』（平成25-28年度科学研究費補助金 基盤研究C 研究課題番号：25380277）

### (2) 教育・地域連携等の活動

担当科目：

行政学、行政学演習、公共政策とはなにか、日本国憲法、スタートアップセミナー

審議会委員：

東根市情報公開・個人情報審査会委員、

村山公立病院情報公開・個人情報審査会委員



(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動については、「公益法人を巡る改革が公益法人の活動に及ぼす影響の定量的分析・評価に関する研究」(平成25-28年度科学研究費補助金 基盤研究C 研究課題番号:25380277)の第三年次目の研究活動として、①平成24年経済センサス活動調査と平成23年特例民法法人概況調査の完全照合データを用いた集計表の作成、②平成24年経済センサス活動調査から学校法人の個票を抽出した集計表の作成、③平成24年経済センサス活動調査から社会福祉法人の個票を抽出した集計表の作成、④共同研究者が岡山大学を会場に開催された2015年度統計関連学会研究会(9月9日)にて「公益法人改革前後の公益法人の活動分析—行政記録と統計調査の完全照合データを用いて—」(共著者として掲載)を報告、⑤共同研究者が統計数理研究所を会場に開催された共同研究集会「公的統計のマイクロデータ等を用いた研究の新展開」(11月27日)において、「法人の収入金額・年間収入の分析—平成23年特例民法法人概況調査と平成24年経済センサス活動調査の個票を用いて—」(共著者として掲載)と題して報告を行った。

教育活動については、プレゼンテーションソフトや映像ソフトを利用することにより視覚に訴えた分かりやすい講義となるように努めた。また、対話型の講義を行うように努めるとともに、講義とレポート作成を連携させて、学生の能動的学習を推進した。

**亀井 慶太**

(1) 研究成果

【研究論文】

Kamei, K. and H. Sasaki (forthcoming) "Agricultural Productivity, Infrastructures, and the Optimal Timing of Opening Trade" The Manchester School.

【研究報告】

"Trade Liberalization, Unemployment and Unionized Oligopoly in a General Equilibrium" 国際経済と経済成長・マクロ経済学に関する山形ワークショップ, 山形大学, 2016年3月9日

"Unemployment and Non-tradable Goods in a Unionized Oligopoly" KIER 共同研究プロジェクト研究会, 高知工科大学, 2015年10月11日

"Trade Liberalization, Division of Labor and Imperfect Competition in General Equilibrium." Summer Workshop on Economic Theory (SWET), 小樽商科大学, 2015年8月5日。

【外部資金】

科学研究費補助金 研究活動スタート支援(研究課題番号:15H06059), 単独, 研究代表者, 2015.08-2017.03

【研究会主催】

国際経済と経済成長・マクロ経済学に関する山形ワークショップ(2016年3月9日), 山形大学人文学部

(2) 教育・地域連携等の活動

【担当講義】

国際経済論 a, b



専門基礎演習（前期）

国際経済論演習

国際経済論特論

ミクロ経済学入門（基盤）

【出張・模擬講義】

米沢東高校, 2015/10/20

聖和学園高校 (at 山形大学), 2015/10/7

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究・教育ともに勉強になることが非常に多い年であった。特に今年度は、教員・事務の方々に協力していただき、山形大学で研究ワークショップを開催することができた。少しでも山形大学に貢献できるように引き続き努力していきたい。

川村 一義

(1) 研究成果

- ・「議会研究の意義再考」研究報告（大東文化大学国際比較政治研究所）2015年12月
- ・「多様な国会論の政治学的検討と国会観の転換」科学研究費助成事業（若手研究B），課題番号：26780079

(2) 教育・地域連携等の活動

[担当科目（全て本学）]

- ・政治過程論（前・後期）
- ・公共政策学
- ・公共政策学演習
- ・専門基礎演習
- ・総合講座Ⅰ（公共政策）（分担）
- ・公務員対策セミナー（分担）

[社会連携等]

- ・尾花沢市総合企画審議会委員，2015年6月～2017年6月
- ・出張講義①（山形県立山形西高等学校），2015年7月
- ・出張講義②（岩手県立千厩高等学校），2015年9月
- ・第43回山形県地方自治研究集会講師，2015年10月
- ・東根市議会議員研修会講師，2016年1月

北川 忠明

(1) 研究成果

〈論文〉

- ・「レオン・ブルジョワにおける連帯・共和国・国際連盟構想（二）」，山形大学法政論叢第62号，

平成27年3月

- 「レオン・ブルジョワにおける連帯・共和国・国際連盟構想 (三)」, 山形大学法政論叢第63・64号, 平成27年12月
- 「社会連帯論の再構築に向けて—S. ポーガムの所説に寄せて」, 『グローバル時代におけるヒトの移動の自由と管理—社会保障制度を中心に—』平成25年度~27年度 科学研究費基盤研究 (B) 研究成果報告書 (研究代表者: 高橋和) (課題番号 25283002) 平成28年3月  
〈書評〉
- ドミニク・シュナペール『市民の共同体』(法政大学出版局), 「図書新聞」, 10月5日号

(2) 教育・地域連携等の活動

〈担当授業〉

- 政治理論 (学部)
- 政治理論演習 (学部)
- 政治と人間 (基盤教育)
- 現代政治論特論 (大学院)
- 現代政治論特別演習 (大学院)
- 特別研究 (大学院)

〈社会連携〉

- 山形県明るい選挙推進協議会委員
- 山形市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部会議懇話会座長
- 長井市振興審議会会長

(3) 研究・教育活動に関するコメント

- 研究面では, レオン・ブルジョワ研究をひとまず完結させた。今後は社会連帯論の再構築に向けた検討を行う。
- 教育面では, 学生の論理的思考能力が低下しているのではないかと疑念を持ちつつ, もう一工夫を試みている。

**國方 敬司**

(1) 研究成果

【研究成果】

- 単著「ウォータ・メドウズについて」『山形大学紀要 (社会科学)』第46巻1号, 2015年7月, pp.105-120.
- 単著「ウォータ・メドウズとウェセクス農業革命」『山形大学紀要 (社会科学)』第46巻2号, 2016年2月, pp.19-38.

(2) 教育・地域連携等の活動

【教育】

・山形大学での授業

西洋経済史，環境と経済，西洋経済史・環境と経済演習，経済からみた環境との共生，生活と経済

・東北文教大学での授業

くらしと経済

【講演等】

- ・「東根市まちづくりタウンミーティング」パネリスト，さくらんぼタレントクルセンター 大ホール，2015年4月25日
- ・「山形いきいき子育て応援企業『ダイヤモンド企業』知事対談」対談コーディネーター 庁知事室，2016年2月19日（金）
- ・NHK ハートフォーラム「子どもたちの未来を応援～子どもの貧困を考える～」コーディネーター，山形市東部公民館，平成28年3月19日（土），他

【審議会委員】

「子育てするなら山形県」推進協議会会長

山形県子どもの貧困対策・ひとり親家庭自立促進推進委員会委員長

山形県環境審議会委員

東根市市総合計画策定専門家会議委員

白鷹町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会委員長

中山町政策推進会議委員長

河北町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定有識者会議委員，他

(3) 研究・教育活動に関するコメント

副学部長，やまがた地域社会研究所長としての管理運営業務で手一杯になり，個人としての目標については当初予定していた通りには進捗しなかった。学部の管理運営業務のあり方については，検討を要する時期に来ているのではないかとの感想をもつ。

コーエンズ 久美子

(1) 研究成果

[論文]

「消費者法情報」『現代消費者法』29号（平成27年12月）

[研究報告]

PLEDGE OF BOOK-ENTRY SECURITIES IN JAPAN: SHOULD JAPANESE LAW EMBRACE PERFECTION BY CONTROL AGREEMENT AND SECURITY INTERESTS IN SECURITIES ACCOUNTS?

Kumiko Koens & Charles W. Mooney 共同研究報告

日本銀行金融研究所（平成27年7月21日）

(2) 教育・地域連携等の活動

[担当授業] 基盤教育基幹科目 (共生を考える), 商法 I, 商法 II, 商法演習 I, 国際取引マネジメント論 (理工学研究科)

[地域連携活動] 山形地方最低賃金審議会公益委員, 山形県指定管理者選定委員会委員, 山形県建築士審査会委員, 寒河江市地域づくり推進委員会委員, 子育てするなら山形県推進協議会委員

(3) 研究・教育活動に関するコメント

証券振替制度における証券および証券口座の担保化について、ペンシルバニア大学 (米国) ムーニー教授と共同研究を開始し、アメリカ統一商法典およびユニドロアが策定したジュネーブ条約において採用されている新しい担保制度の日本法への導入について検討した。共同研究の成果の一端を、日本銀行金融研究所において報告した。この報告については、論説 (SECURITY INTERESTS IN BOOK-ENTRY SECURITIES IN JAPAN: SHOULD JAPANESE LAW EMBRACE PERFECTION BY CONTROL AGREEMENT AND SECURITY INTERESTS IN SECURITIES ACCOUNTS?) として University of Pennsylvania Journal of International Law において公表を予定している。

また、愛知大学、立命館大学の商法ゼミとの合同ゼミ合宿を愛知大学笹島キャンパスで行った。学生は模擬裁判の原告として、訴状、答弁書作成等事前準備に自主的に取り組み、主体的かつ集中的に学習した。また合同ゼミにおいては初対面の学生たちと議論をし、交流もでき、極めて有意義だったと思う。

是川 晴彦

(1) 研究成果

・科研費研究：持続可能な中心市街地活性化政策の研究 (中心市街地活性化における大学教育の意義の考察) ・寒河江市の協力を得て大学教育と中心市街地活性化に関する調査を実施するとともに研究会を開催した。

(2) 教育・地域連携等の活動

[担当授業]

ミクロ経済学, 応用ミクロ経済学, 公共経済学, ミクロ経済学演習, スタートアップセミナー, 公共経済学特論, 公共経済学特別演習

[地域貢献活動など]

- ・山形県 (産業構造審議会委員, 入札監視委員会委員長, 指定管理者審査委員会の外部委員)
- ・山形市 (行財政改革推進懇話会座長)
- ・天童市 (天童市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議委員)
- ・寒河江市 (さがえ未来創生戦略に係る外部有識者会議座長, 振興審議会会長)
- ・長井市 (行財政改革推進委員会委員長)
- ・東北地方整備局入札監視委員
- ・山形県長寿医療懇談会会長

- 米沢市議会における講演
- 提言の広場（山形テレビ）

### (3) 研究・教育活動に関するコメント

科研費研究（中心市街地活性化に関する研究）では、体調面の問題もあり、予定した調査の一部が延期となり、理論面の研究を中心に進めたが、無事、体調が回復したので、次年度以降に調査を実施していきたい。不完全競争市場を対象とした課税理論の分析も昨年度に継続して行った。

教育面では、講義内容や時間配分の見直しを行うとともに、受講生が講義内容を復習しやすい資料の作成を心がけた。大学院教育では、正指導教員として大学院生の修士論文作成の指導を行った。

## 今野 健一

### (1) 研究成果

- 書評：「結城忠著『憲法と私学教育』—憲法原理に基づく私学教育法論と外国法研究の本格展開」, 季刊教育法185号
- 学界回顧：「2015年学界回顧（教育法）」, 法律時報87巻13号

### (2) 教育・地域連携等の活動

#### ①担当授業科目

- 学部専門科目：憲法Ⅱ・Ⅲ，憲法演習Ⅱ，総合講座Ⅱ（法律）
- 基盤教育科目：日本国憲法，教養セミナー

#### ②地域連携・高大連携活動

- 山形市情報公開・個人情報保護審査会委員
- 山形県後期高齢者医療広域連合情報公開・個人情報保護審査会委員

#### ③マスコミ対応

- さくらんぼTVのカメラ取材（政治資金規正法の解説）
- 東京新聞のアンケートに応じ記事掲載（安保法案の憲法的評価）

### (3) 研究・教育活動に関するコメント

研究に関しては、書評と学界回顧のみという些かさみしい結果となってしまった。教育面では、専門演習でハンセン病療養施設（東北新生園，宮城県）等での見学を行う機会を設けた。東北新生園では、ソーシャルワーカーの方に懇切な説明をしていただいた。事前学習を重ねて訪問したが、実際に現地で専門家の子細な案内を受けることで、文字のうえにとどまらない生の現実に接し、学生のみならず私もたいへん勉強になった。

## 坂本 直樹

### (1) 研究成果

[論文]

1. Tax, spend, and democracy indices in Japan, Sakamoto, N., Takimoto, T., Discussion Paper No.2015-E 1, Research Group of Economics and Management, Faculty of Literature and Social Sciences, Yamagata University, pp. 1-49, 2015.10.

[学会報告]

1. ウツタイン統計データによる統計的生命の価値の計測, 坂本直樹, 阪田和哉, 瀧本太郎, 中寫一憲, 生川雅紀, 第51回土木計画学研究発表会 (九州大学), 2015. 6.

2. Measurement of long-Term flood damage in Japan using spatial computable general equilibrium model, Nakajima, K., Morisugi, H., Morisugi, M., Sakamoto, N., The European Association of Environmental and Resource Economists 21st Annual Conference (Helsinki, Finland), 2015. 6.

3. A simple approach to measuring value of a statistical life by revealed preference data, Morisugi, H., Sakamoto, N., Morisugi, M., Ohno, E., Nakajima, K., Mori, R., 5th Asian Seminar in Regional Science (Harbin, China), 2015. 7.

4. Have intergovernmental transfers stimulated expenditures in Japan's local government?, Takimoto, T., Sakamoto, N., Singapore Economic Review Conference 2015 (Singapore), 2015. 8.

5. Disparity in emergency medical services across Japan, Takimoto, T., Sakata, K., Nakajima, K., Narukawa, M., Sakamoto, N., 55th European Regional Science Association Congress (Lisbon, Portugal), 2015. 8.

6. General equilibrium analysis of regional redistributive effects of investment for reconstruction from the Great East Japan Earthquake, Nakajima, K., Sakamoto, N., 55th European Regional Science Association Congress (Lisbon, Portugal), 2015. 8.

7. 気候変動による熱中症死亡の適応策に関する費用便益分析, 中寫一憲, 坂本直樹, 森杉雅史, 森杉壽芳, 大野栄治, 森龍太, 環境経済・政策学会2015年大会 (京都大学), 2015. 9.

8. ウツタイン統計データによる救急救命活動のアウトカム評価, 坂本直樹, 生川雅紀, 中寫一憲, 阪田和哉, 瀧本太郎, 日本計画行政学会第38回全国大会 (名古屋工業大学), 2015. 9.

9. A simple approach to measuring value of a statistical life by revealed preference data, Morisugi, H., Sakamoto, N., Morisugi, M., Ohno, E., Nakajima, K., Mori, R., 応用地域学会第29回研究発表大会 (慶応義塾大学), 2015.12.

10. Tax, spend, and democracy indices in Japan, Sakamoto, N., Takimoto, T., 日本大学法学部政治経済学科経済研究会 (日本大学), 2016. 2.

11. 救急搬送時間の短縮によるアウトカムと便益の評価, 坂本直樹, 甲南大学経済学部ファカルティセミナー (甲南大学), 2016. 3.

12. 救急搬送時間の短縮によるアウトカムと便益の評価, 坂本直樹, 国際経済と経済成長・マクロ経済学に関する山形ワークショップ (山形大学), 2016. 3.

## (2) 教育・地域連携等の活動

[教育]

財政学 (前期), 財政学 (後期), 地方財政論 (前期), 地方財政論 (後期), 財政政策論 (東北学院大学経済学部, 通年)

地域ガバナンス論（東北文化学園大学，前期）

〔地域連携等〕

白鷹町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会委員

公益財団法人東北自治研修所第197回東北六県中堅職員研修「自治体財政」講師

(3) 研究・教育活動に関するコメント

財政学の研究について，1編の Discussion Paper を執筆し，2件の学会報告を行った。また，費用便益分析について10件の学会報告を行った（共同研究者による報告を含む）。

**柴田 聡**

(1) 研究成果

菅野・柴田（2015）製品デザインにおける組織内パワーの決定要因 日本経営学会関東部会例会

菅野・柴田（2015）デザイン部門の関与効果に対する組織要因の影響分析 実践経営学会第58回全国大会

(2) 教育・地域連携等の活動

地域デザイン学会 東北・三新潟地域部会の運営委員

(3) 研究・教育活動に関するコメント

特に無し

**下平 裕之**

(1) 研究成果

【翻訳】

・ゴードン・フレッチャー『デニス・ロバートソン』勁草書房，2015年。

【学会報告等】

・「ケンブリッジ学派の景気変動論：ロバートソンを中心として」ケインズ学会第5回年次大会（2015年11月29日）

・「ジェームズ・ミル『経済学要綱』初版に関するテキストマイニング分析」第51回経済思想研究会（2015年4月19日）

・「英文解析プログラムによるテキスト難易度の推定とその適用について」第53回経済思想研究会（2015年12月13日）

(2) 教育・地域連携等の活動

山形大学における担当授業：

〔学部〕経済思想，経済学史，経済学史演習，地域づくり特別演習，公務員講座（小論文指導）

〔基盤教育〕Jリーグと地域社会，最上川の自然と文化，災害復興学入門

非常勤：羽陽短期大学（経済学），東北文教大学（現代企業論），放送大学（客員教授）



## 地域連携活動

- ・高校での出張講義等：新庄北高校
- ・山形財務事務所財務モニター
- ・山形大学まちづくり研究所・山形仙台圏交流研究会への参加
- ・山形大学東北創生研究所・社会創生研究部門長
- ・最上地域政策研究所アドバイザー
- ・山形県職員育成センター主査級研修講師
- ・村山総合支庁地域づくり交流会講師
- ・きらやか銀行中央営業部講演会講師
- ・市民向け地域づくり講演会（川西町，山形市大郷地区）
- ・放送大学主催公開講座（全3回）

### (3) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動については、主研究分野であるデニス・ロバートソンについての体系的著作の翻訳を刊行するとともに、その成果の一部を活かした学会報告を行った。また経済学の一般大衆への普及過程の分析というテーマで科研費基盤研究（B）を再度獲得し、それに基づく研究を継続している。

教育・地域連携活動については学内での活動の他、村山総合支庁・最上総合支庁の地域連携事業に参画し、民間企業（きらやか銀行）からの協力要請にも対応した。

## 尻無濱 芳崇

### (1) 研究成果

#### 【論文】

- ・尻無濱芳崇（2016）「社会福祉法人における原価計算システムの機能性の決定要因：クラスター分析を用いた探索的研究」『会計検査研究』53：29-47
- ・劉美玲・市原勇一・木村太一・尻無濱芳崇（2015）「管理会計研究における形成型尺度の利用の現状—構成概念の測定モデルの選択—」『メルコ管理会計研究』8（1）：77-88
- ・岡田幸彦・尻無濱芳崇（2015）「サービス企業におけるコスト意識と採算性の実証分析」『企業会計』67（9）：1271-1278
- ・洪慈乙・尻無濱芳崇・張濤赫（2015）「韓国大学における会計教育の実態調査および分析（1）」『山形大学紀要 社会科学』46（1）：139-168
- ・洪慈乙・尻無濱芳崇・張濤赫（2016）「韓国大学における会計教育の実態調査および分析（2）」『山形大学紀要 社会科学』46（2）：67-81

#### 【学会報告】

- ・尻無濱芳崇・森光高大（2015）「防衛調達に関する契約時概算原価と実際原価の差異に関する考察：利益調整研究手法の応用」日本管理会計学会2015年度第3回管理会計フォーラム（12月5日報告）
- ・黒木淳・尻無濱芳崇（2015）「社会福祉法人における裁量行動とインセンティブの検討」日本

社会関連会計学会2015年度 東日本部会（7月4日報告）

・尻無濱芳崇「社会福祉法人における経営管理者の特性と原価情報が財務業績へもたらす影響」  
第48回 京都管理会計研究会（5月9日報告）

(2) 教育・地域連携等の活動

【教育活動】

管理会計（前期）、管理会計（後期）、公会計、専門基礎演習、情報処理、管理会計演習、管理会計特論Ⅱ、管理会計特別演習

加えて、自主ゼミ（統計解析環境 R の勉強会）を夏休みと後期にかけて数回行った

【地域連携活動】

- ・ YU-COEC「地域価値創成に貢献する University Entrepreneurship 研究拠点」に関連して、県議会議員との意見交換会で講演
- ・ 平成27年度山形大学人文学部公開講座「地域を学び、地域を考える」 第3回「地域包括ケアシステムと会計」
- ・ 山形県福祉人材センター 運営委員（学識経験者）

(3) 研究・教育活動に関するコメント

講義資料の作成もほぼ終わり、地域連携活動や研究活動に力を入れることができるようになった。初めてゼミ生の卒業論文指導をして苦労したが、ゼミ生たちの成長が実感できて嬉しかった。この調子で来年度以降も頑張りたい。

杉野 誠

(1) 研究成果

(2) 教育・地域連携等の活動

担当授業：環境経済学、医療経済学、環境問題を経済学的に考える（基盤教育）、温暖化政策を考える（教養セミナー）

地（知）の拠点事業（COC）『エコショップやまがたを用いた地域活性化の検討』

(3) 研究・教育活動に関するコメント

今年度は、COCに時間を多く割いたため、論文投稿のみとなってしまう、研究成果が出なかったことが悔やまれる。来年度は、今年度行った研究成果を発表していきたい。

鈴木 明宏

(1) 研究成果

【論文等】

- ・ Contagion of self-interested behavior: evidence from group dictator game experiments, German Economic Review, forthcoming, 2015. (伊藤健宏・小川一仁・竹本亨・高橋広雅との共著)

- 後続実験における意思決定に先行実験が与える影響——一方的最後通牒ゲーム実験による分析——, 山形大学紀要 (社会科学) 第46巻第2号, 39-44, 2015. (伊藤健宏・小川一仁・竹本亨・高橋広雅との共著)

【学会等報告】

- 携帯電話を用いた簡易経済実験システムについて, 慶應大学 尾崎裕之一門会, 2015.12. (西平直史・小川一仁・竹本亨・高橋広雅との共著)
- 携帯電話を用いた簡易経済実験システムについて, 東京工業大学 武藤先生退職記念セミナー, 2016. 2. (西平直史・小川一仁・竹本亨・高橋広雅との共著)

(2) 教育・地域連携等の活動

【講義等】

(専門科目) ゲーム理論, 産業組織論, 経済数学, 意思決定論演習  
(基盤教育) スタートアップセミナー

【社会連携等】

- 山形大学まちづくり研究所 (山形大学認定研究所) メンバー
- 山形・仙台圏交流研究会メンバー
- COI 社会システム研究委員会委員

(3) 研究・教育活動に関するコメント

今年度は携帯電話用実験プログラムについては, 実施可能な実験種類を増やすべく3月完成に向けて作成中である。また, これまでに行った経済実験の結果をまとめ, 1つは海外誌に掲載が決定した (GER のサイトで閲覧可能である)。

また, 外部との連携に関しては, COI で工学部との連携に協力した。これに関しては, 次年度以降も継続予定である。

砂田 洋志

(1) 研究成果

- 「高知県四万十市の地域公共交通システムの調査報告—中村まちバスの調査報告—」, 山形大学紀要 (社会科学), 第46巻第1号, pp.121-138, 2015年7月。
- 「長野県木曾町の木曾町生活交通システムの調査報告—」, 山形大学大学院社会文化システム研究科紀要, 第12号, pp.27-41, 2015年11月。
- 「山形県川西町のデマンド型交通の調査報告—乗合タクシーの調査報告—」, 山形大学紀要 (社会科学), 第46巻第2号, pp.45-65, 2016年2月。
- 「山形県高島町におけるデマンド型交通の調査報告—デマンドタクシーの調査報告—」, 山形大学人文学部研究年報, 第13号, pp.65-82, 2016年3月。

(2) 教育・地域連携等の活動

担当授業

計量経済学，統計学，専門演習（学部），スタートアップセミナー（前期）

#### 地域連携

- 山形県市町村職員共済組合と同互助会の学識経験監事として監事業務を行った。
- 山形・仙台圏交流研究会へ参加した。
- 山形県統計利用アドバイザーを任命されており，必要に応じて相談に応じている。
- 教員免許状更新講習の講師を担当した（平成27年8月3日）。
- 山形県飯豊町統計調査員協議会主催の研修会の講師として講義した（平成27年8月）。
- 山形県庁統計企画課主催の統計専門研修の講師として講義した（平成27年9月）。
- 山形県経済動向研究会に同会の構成員として参加した（平成27年9月と同28年3月）。
- 学部広報会委員会の委員として山形県内外の高校へ出張して人文学部の説明を行った他，県外の3つの高校で出張講義も行った。さらにオープンキャンパスとホームカミングデーの企画運営に携わった。

#### (3) 研究・教育活動に関するコメント

- 地域公共交通の研究では，長野県木曾町の公共交通を再び視察した後で調査報告書にまとめた。それに加えて，山口市のコミュニティータクシーを視察した。
- 計量経済学的手法に基づいた金融市場の研究について科学研究費補助金を得られることになったので，研究計画に基づき研究を進めたいと考えている。
- 統計学演習では，4人の4年生が卒業論文を執筆するのを指導した。

### 高倉 新喜

#### (1) 研究成果

- 高倉新喜「最新判例演習室一準抗告取下げの効力の発生時期」法学セミナー724号（2015年）122頁
- 高倉新喜「最新判例演習室一付郵便送達の効力」法学セミナー727号（2015年）122頁
- 高倉新喜「最新判例演習室一刑訴法278条の2第3項による過料の制裁」法学セミナー730号（2015年）130頁
- 高倉新喜「評釈一最一小判平26・7・24の検討」季刊刑事弁護84号（2015年）110-114頁
- 高倉新喜「最新判例演習室一第三者の供述の信用性の判断」法学セミナー733号（2016年）98頁

#### (2) 教育・地域連携等の活動

- 専門科目：刑事訴訟法  
刑事法基礎  
刑事訴訟法演習  
法と裁判  
法経政策専門基礎演習  
総合講座Ⅱ（刑事訴訟法の部）

## 自治体経営

### • 地域連携

出張講義：山形県立長井高校（テーマ：「法律学って、何やるの？」）

山形県介護保険審査会委員

山形県精神医療審査会委員

山形地方裁判所簡易裁判所判事推薦委員会委員

山形地方裁判所委員会委員

山形県弁護士会綱紀委員会予備委員

教職員の不祥事防止に係る有識者会議座長

取材協力：北海道新聞（常習累犯窃盗事件での一事不再理の効力の範囲について）

共同通信（闇サイト事件について）

### (3) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動においては、法学セミナーの「最新判例演習室—刑事訴訟法」の執筆を継続した。教育活動においては、刑事訴訟法演習での現地学習として置賜学院の見学を実施し、自治体経営の窓口教員を担当した。

## 高橋 和

### (1) 研究成果

#### (1) 論文

「EUにおけるヒトの移動と社会保障—「社会保障ツーリズム」という言説—」

『山形大学紀要（社会科学）』第46巻第2号，平成28年2月，1-18頁

#### (2) シンポジウム

Transnational Migration between the Right to Freedom and the Control of the States, 平成27年9月13日 山形大学人文学部にて開催

- 報告 'Migration in the EU and Discourse on Social Tourism

### (2) 教育・地域連携等の活動

#### (1) 教育

専門科目：国際関係論，国際公共政策，地域の国際化，国際関係論演習

基盤科目：国際関係入門 を担当

#### (2) 地域連携等の活動

- アカデミックインターンシップ/アカデミックキャンプの実施および授業を担当
- 出張講義 喜多方高校
- 山形労働局 最低賃金審議会公益委員  
山形地方労働政策審議会委員（会長）
- 山形県行政改革審議会委員（会長）
- 山形県障がい者施策推進協議会学識委員

・山形県精神医療審査会委員

(3) 研究・教育活動に関するコメント

教育では、クリッカーやロールプレイなどを利用して双方の授業の試みを行っている。

研究では、9月に科研費基盤研究(B)の最終年度にあたるために、人文学部で国際シンポジウムを実施した。科研費に加えて、山形大学国際事業化センターの支援を得て、チェコとフィリピンからゲストを招聘することができ、今後の研究のためのネットワークづくりの基礎ができた。

**高橋 良彰**

(1) 研究成果

論文など、特に公開したものはなかった。

(2) 教育・地域連携等の活動

金融法入門(前期),民法総則・物権法(前期ゼメ),民法演習Ⅲ(通年),など。出張講義(鶴岡南)。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

学内委員として、基盤教育実施会議委員、山形大学医学部付属病院医薬品等受託研究審査委員会委員としての活動があった。研究教育活動としては、司法書士の方々による韓国視察団報告書用に「法的知識は誰のものか」と題する文章を作成した。また、編集物として出版予定で交渉していた『旧民法典』が出版できないこととなったので、学生用に印刷して配布することとした。

**田北 俊昭**

(1) 研究成果

○研究発表

「都市・農村計画としての高級米「つや姫」の地域ブランド価値評価－ロジットモデルを使用した地域ブランド評価」田北俊昭・菊池一恵、第27回応用地域学会研究発表会、平成27年12月

○芸術文化作品(他分野実務家教員／著名実務家との地方創生の共同研究)

都市・農村計画分野の実践的な研究「ソフト分野の社会資本」整備のために、特にメッセージ性の高い芸術文化領域の実務教員および音楽家・音楽プロデューサーとの協働事業である。音楽専門家(東京芸術大学での作曲指導)によりピアノ伴奏曲が編曲および演奏録音を行っている。自然・歴史文化・芸術文化による地方創生によって経済効果をもたらす理論的な面を専門家と連動して作品化して、FMやまがたに出演、学術的な面と作品の紹介をしている。片野坂栄子氏(オペラ歌手)はバーンスタイン・小澤征爾等の指揮者、ウイーン国立歌劇場・NHK交響楽団等と共演し、欧州で数多く蝶々夫人を演じ黄金のバラ賞を獲得。高橋千佳子氏は商業音楽の一人者で数多くのCMヒット曲を生み出し東京芸術大学・国立音楽大学講師を務める。

・「羽前おきたま白竜湖」片野坂栄子(大分県立芸術短期大学／ソプラノ)・高橋千佳子(東京芸術大学／ピアノ)：歌曲「羽前おきたま白竜湖恋伝説～ピアノ伴奏曲(作詞作曲：田北俊昭・編曲：高橋千佳子(東京芸術大学))」「田北俊昭(総合プロデュース)・秋田信一郎(音楽音楽ディレ

クター)」(※日本音楽著作権協会 JASRAC 作品コード194-8817-3 田北・高橋は日本音楽著作権協会会員)

○外部資金

平成 27 年度緑と水の森林公募事業 共同研究者 (16名)「イチョウ古木の伝播経路と遺伝特性の解析および遺伝資源保存事業」(代表者:高田 克彦(秋田県立大)のうち、「古木や銘木いちょうの地域ブランドと情報戦略」を担当。

(2) 教育・地域連携等の活動

○担当科目

ミクロ経済学入門(1年), 観光学と地域ブランド(1年), 地域科学(2年), 経済情報科学(2年後期), 経済情報科学(3年前期), 経済情報科学演習(3・4年), 社会経済システム特論・特別演習と特別研究(大学院)

○社会連携について

[作品・放送] FMやまがた, 平成27年8月 地域ブランド経済と歌曲の解説  
片野坂栄子(オペラ歌手)・高橋千佳子(ピアノ) 歌曲「羽前おきたま白竜湖恋伝説(ピアノ編曲)」  
「田北俊昭(作詞作曲)・高橋千佳子(編曲)」, 音楽ディレクター:秋田信一郎, 総合プロデューサー:田北俊昭, 音響ハウス(原盤録音), 平成27年7月

[講演会]「蔵王と山形全体の世界ブランド戦略について考えるー国際観光リゾートとオリンピック誘致・食の宝庫の山形・畜産とジビエブランド」, 蔵王温泉, 平成28年2月

※農林水産省・山形県及び山形市等の関連市町村および本研究室から田北が講演。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

・地域ブランドに関する研究活動(理論と実証分析)に加えて, 実践的な地域創生プログラムを実施した。

溜川 健一

(1) 研究成果

【学会報告】

Macroeconomic Analysis of Relationship Lending 日本金融学会2015年度春季大会 於:東京経済大学

(2) 教育・地域連携等の活動

【担当授業科目】

(専門科目) マクロ経済学, 応用マクロ経済学, マクロ経済学演習  
(基盤教育) 教養として知っておきたい経済学

【地域連携】

特になし



(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究・教育，特に地域連携についての貢献が不十分である。今後はさらに努力し，大学への貢献度を高めたい。

戸室 健作

(1) 研究成果

[論文]

- ・「日本における雇用政策・労使関係の現状と課題—ヨーロッパにおけるフレキシキュリティ政策を念頭に—」『社会政策』7巻1号，2015年7月25日，65-75頁。
- ・「東北各県における貧困率の推移」『山形県の社会経済』28号，2015年12月15日，21-26頁。
- ・「都道府県別の貧困率，ワーキングプア率，子どもの貧困率，捕捉率の検討」『山形大学人文学部研究年報』13号，2016年3月1日，33-53頁。

[学会報告等]

- ・社会政策学会第131回大会の書評分科会にて，伍賀一道『「非正規大国」日本の雇用と労働』の書評報告を行う（2015年11月1日10：10～10：50。西南学院大学）。

[その他]

- ・『拙稿「都道府県別の貧困率，ワーキングプア率，子どもの貧困率，捕捉率の検討」の基礎データ』山形大学人文学部法経政策学科 Discussion Paper Series No. 2015-E02, 2015年12月，1-85頁。
- ・「書評 早川征一郎・松尾孝一著『国・地方自治体の非正規職員』」『日本労働社会学会年報』26号，2016年1月20日，160-164頁。
- ・「子の貧困率県内30% 福祉と労働政策 拡充を」『琉球新報』2016年2月4日，28面
- ・「書評 伍賀一道『「非正規大国」日本の雇用と労働』新日本出版社，2014年」『社会政策』7巻3号，2016年3月31日，156-160頁。
- ・戸室健作・山本一輝・栗原康「鼎談 ブラック社会を生きる若者たち」『文芸ラジオ』2号，2016年3月31日，102-112頁。

(2) 教育・地域連携等の活動

[担当授業科目]

- ・専門教育科目：社会政策論，社会保障論，労働と生活，社会政策論演習，卒業論文指導，法経政策総合講座Ⅲ（オムニバス1回担当）
- ・基盤教育：スタートアップセミナー

[学会活動]

- ・社会政策学会秋季大会企画委員会委員
- ・日本労働社会学会幹事（研究活動担当）
- ・社会政策学会第131回大会の自由論題「統計分析」のセッションで座長を担当する（2015年11月1日15：00～17：00。西南学院大学）
- ・日本労働社会学会第27回大会のシンポジウム「「女性活躍」政策下の女性労働」の司会を担当する（2015年11月8日10：30～16：00。大阪市立大学梅田サテライト）

[地域連携等]

- 社会福祉法人山形県社会福祉協議会評議員
- 山形県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会委員
- 山形県立谷地高校での出張講義。講義内容は「非正社員増大の実態と背景」(2015年7月16日 13:40-14:50)
- 連合山形ユニオンリーダー養成講座で講義をする。講義内容は「非正社員増大の実態と背景」(2015年8月1日13:00-14:20。大手門パルズにて)
- 山形県経済社会研究所主催の年報報告会で報告する。報告内容は、「都道府県別の貧困率、ワーキングプア率、子どもの貧困率、捕捉率について」(2015年12月14日14:30-15:00。大手門パルズにて)
- 記事「子の貧困率 沖縄37% 山形大・戸室准教授調査」『琉球新報』2016年1月5日, 1面, 32面, 33面
- 記事「県貧困率, 全国で最悪 34% 子の貧困も拡大」『沖縄タイムス』2016年1月5日, 1面, 27面
- 記事「社説 子どもの貧困最悪 各施策を矢継ぎ早に」『琉球新報』2016年1月6日, 2面
- 記事「山形大・戸室准教授に聞く 県内, 子育て世代ほど貧困」『琉球新報』2016年1月6日, 24面
- テレビ放送「最貧困県 衝撃の数字が明らかに」琉球朝日放送「ニュースQプラス」2016年1月6日
- テレビ放送「沖縄の「貧困率」は全国最悪」NHK 沖縄放送局ニュース2016年1月21日
- 記事「子どもの貧困 道内も深刻 戸室・山形大准教授が調査」『北海道新聞』2016年2月2日, 13面
- 記事「子育て貧困世帯20年で倍 山形大准教授調査」『毎日新聞』2016年2月18日, 1面
- ラジオ放送「子育て世帯の貧困の実態」J-WAVE「JAM THE WORLD」2016年2月18日
- テレビ放送「「子育て貧困」世帯 20年で倍増」さくらんぼテレビ「みんなのニュース」2016年2月18日
- 記事「子ども貧困率 県20年間で10ポイント上昇」『毎日新聞』(山形版)2016年2月19日, 25面
- 記事「貧困子育て世帯率, 20年で2.5倍」『朝日新聞』朝刊2016年2月19日, 7面
- 記事「沖縄 子ども3割「貧困」」『朝日新聞』(西部版, 朝刊)2016年2月21日, 34面
- 記事「「子どもの貧困」倍増の背景は? 大人の18%超が生活保護以下の世帯収入」ニュースサイト「THE PAGE」2016年2月23日
- テレビ放送「子どもの貧困を考える 深刻「負の連鎖」検証」TBS テレビ「Nスタ」2016年2月23日
- 記事「子育て貧困世帯 20年で倍 山形大調査 収入 生活保護以下13%」『東京新聞』2016年3月2日, 6面
- 記事「子育て貧困世帯率2.5倍に」『日本経済新聞』朝刊2016年3月2日, 42面
- 記事「子育て世帯貧困率9.9%」『秋田魁新報』2016年3月13日, 25面

- 記事「子ども貧困 全国で拡大 山形大准教授が独自調査」『東京新聞』朝刊2016年3月14日、28面
- 記事「子どもの貧困率 20年で6倍」『讀賣新聞』（山形版）2016年3月14日、33面
- 記事「貧困世帯、20年で2.5倍」『しんぶん赤旗』2016年3月15日、2面
- テレビ放送「子どもの貧困とワーキングプア」NHK「視点・論点」2016年3月18日

### (3) 研究・教育活動に関するコメント

今年度も、福島大学、埼玉大学、立教大学と合同合宿を行った（2015年12月12～13日、晴海グランドホテルにて）。戸室ゼミでは「都市と地方のホームレス」と題する報告をした。

研究面では、『研究年報』に掲載された子どもの貧困率についての調査結果を、新聞等で取り上げてもらった。

## 中島 宏

### (1) 研究成果

- 分担執筆：宍戸常寿編『18歳から考える人権』（法律文化社、2015年11月）：「教えに反する授業を休んでもいいですか？」38～43頁
- 論文：「フランスにおける Baby Loup 事件とライシテ原則適用拡大の試み」憲法理論研究会編『対話と憲法理論 憲法理論叢書23』（2015年10月）169～181頁
- 学界回顧：中島宏・都筑満雄「2015年学界回顧・フランス法」法律時報87巻13号（2015年12月）299～301頁
- 実践報告：「山形大学における法学教育の意義に関する覚書」山形大学高等教育研究年報10号（2016年3月）20～24頁
- 口頭報告：①「バール、ブルカ、そしてバビ・ルー」シンポジウム「グローバル時代のヒトの移動の自由と管理」（2015年9月13日、山形大学）、②「安全保障関連法案と憲法9条」法律・政治研究会（2015年9月17日、山形大学）、③「団体規制法制の再検討」第71回宗教学会秋季学会（2015年11月7日、創価大学）

### (2) 教育・地域連携等の活動

#### [教育]

- 基盤：日本国憲法
- 専門：法経政策専門基礎演習、憲法I、比較憲法、憲法演習I、公務員対策セミナー
- 表彰：平成27年度基盤教育ベストティーチャー賞（学生推薦）、平成27年度山形大学奨励表彰につき学生2名を推薦

#### [地域連携]

- 審議会：山形市個人情報保護制度運営審議会副会長、天童市情報公開・個人情報保護審査会委員、山形県後期高齢者医療広域連合個人情報保護制度運営審議会委員
- 講演：①西置賜地区平和センター学習会（2015年6月4日、長井市民文化会館）、②山形市西部九条の会憲法学習会（同年6月20日、山形市男女共同参画センター）、③山形県平和センター

平和セミナー21 (同年7月11日, 大手門パルズ), ④西置賜革新懇話会勉強会 (同年7月12日, 長井市中央地区公民館), ⑤山形県九条連絡会集会 (同年7月25日, 共立社山形本部), ⑥平和安全法制に関する勉強会 (同年7月30日, 山形県庁), ⑦白鷹九条の会講演会 (2016年3月12日, 白鷹町文化交流センターあゆむ)

- 取材協力: テレビユー山形2015年7月14日 Nスタやまがた, 米沢 NCV エリアニュース2016年2月17日「選挙について知識や心構え学ぶ」
- 出張講義: 山形県立高島高校「現代の政治情勢と18歳選挙権」(2016年2月17日)

### (3) 研究・教育活動に関するコメント

本年度は比較的時間に余裕が出来るものと思っていたが, 業務の多忙化と依頼原稿の多さに非常に苦しんだ。安保法制改正に伴い, 講演依頼も相次いだ。可能な限り公平な観点から解説をしたつもりである。学生推薦により再度 BT 賞を頂いた。感謝申し上げたい。

## 西岡 正樹

### (1) 研究成果

「累犯加重と常習犯について (2・完)」法政論叢63・64合併号 (2015年) 61-89頁

### (2) 教育・地域連携等の活動

〔教育〕

担当授業科目

専門教育: 刑事法基礎 (刑法担当), 総合講座Ⅱ (法律), 刑法Ⅰ, 刑法Ⅱ, 刑法演習Ⅱ

〔地域連携等〕

アカデミックインターンシップ (山形大学アカデミックキャンプ): 講義タイトル「少年犯罪実名報道の是非」

出張講義: 宮城県古川高等学校

### (3) 研究・教育活動に関するコメント

前年度同様に諸先生方の協力の下で教育・研究活動に従事することができた。教育活動としては, 刑法演習Ⅱにおいて置賜学院への施設見学を行い, 少年犯罪の現状や施設運営などの実態についての知識を深めた。研究活動としては, 専門とする刑事責任論に関して, 科研費補助金を得て, 累犯加重規定と責任概念に関する研究を継続して行い, その成果を公表した。

## 西平 直史

### (1) 研究成果

1) 鈴木, 高橋, 竹本, 西平, 小川, Easy Economic Experiment System を用いた経済実験の教育効果: 囚人のジレンマと協調ゲーム, 山形大学紀要 (社会科学), 46-1, pp. 1-29 (2015)

(2) 教育・地域連携等の活動

学部 経営システム, 応用情報処理, 経済数学, 情報・システム論演習

基盤 スタートアップセミナー

大学院 経営システム特論

地域連携 山形仙台圏交流研究会, 出張講義など

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究面では, 携帯電話で経済実験を行うシステムの開発に参加し, 教育効果に関する結果を公表した。

教育面では, 学部の講義やゼミに加えて大学院の修士論文の指導を行った。

**藤田 稔**

(1) 研究成果

「福井県経済農業協同組合連合会に対する排除措置命令（平成27・1・16）の検討」2015。6  
NBL1052号71-78頁

(2) 教育・地域連携等の活動

「経済法1」「知的財産法」「経済法演習」「法的なものの考え方と知的財産権（法学）」「競争と協調—独占禁止法と経済規制の80年（人間を考える）」と「総合講座1（公共政策）」の1コマ, 「総合講座2（法律）」の1コマを担当。(その他, 東北学院大学で, 非常勤講師を務めた。)

独占禁止政策協力委員として, 独占禁止政策のあり方について, 公正取引委員会に対して, 意見を述べた。

山形県弁護士会綱紀委員会委員として, 弁護士倫理の維持に協力した。

日本経済法学会理事として, 学会の運営に従事した。

東北経済法研究会で座長として研究を行った。

山形県立保険医療大学の倫理委員会委員を務めた。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

特にない。

**洪 慈乙**

(1) 研究成果

調査報告

- ・洪 慈乙・尻無濱芳崇・張疇赫共著「韓国大学における会計教育の実態調査 および分析（1）」, 『山形大学紀要（社会科学）』第46巻第1号, 平成27年（2015）7月, pp.139-168。
- ・洪 慈乙・尻無濱芳崇・張疇赫共著「韓国大学における会計教育の実態調査 および分析（2）——大学教員へのインタビューを中心に——」, 『山形大学紀要（社会科学）』第46巻第2号, 平成28年（2016）2月, pp.67-81。

(2) 教育・地域連携等の活動

- 教育：(学部) 基幹科目 (人間を考える), 会計学, 財務会計, 会計学演習 (大学院) 修士論文指導
- 地域連携:東北創生研究所「次世代経営者育成プログラム」での講義 (「財務諸表の作成と分析」について)

**松本 邦彦**

(1) 研究成果

「研究ノート／多文化共生に関する地方議会議員の意識調査から」『山形大学法政論叢』第63・64合併号, 091-129頁

(2) 教育・地域連携等の活動

- ひきつづき山本匡毅先生とともに専門教育科目「地域づくり特別演習 (二)」を担当し, 2015年度前期では受講生7人を6団体に受け入れていただいたほか, 市民団体と学生との交流会では4団体の方に来ていただいた。
- ひきつづき, 山形市コミュニティファンド評議委員会の外部委員 (学識経験者) を務めた。
- 高校への出張講義として, 10月29日に福島県立橋高校「学問分野別講義」にて, 題目は「辺境から世界に挑戦して：近代日本の戦争と平和」。
- 11月14日, 安達峰一郎世界平和弁論大会第5回記念大会の開催に協力。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

- 授業スタイルとして, 学生自身に自らの先入観に気づかせ, それを修正させていくようにしているため, 先生から, あるいは同僚の学生から手っ取り早く知識を得ようと (鵜呑みしよう) している傾向には毎年困っています。2016年度にはその点をもうすこしうまく説明していきたいものです。

**丸山 政己**

(1) 研究成果

- (論文) 「「混在移動」概念と国際組織による人権基盤アプローチ—いわゆる地中海難民・移民問題を素材として—」『山形大学法政論叢』第65号 (2016年3月), 1-42頁
- (報告書) 「いわゆる「混在移動」における国際組織の役割—予備的考察—」『グローバル時代におけるヒトの移動の自由と管理—社会保障制度を中心に—』平成25年度~27年度科学研究費基盤研究 (B) 研究成果報告書 (課題番号25283002) 平成28年3月 (2016年3月)
- (口頭発表) The Role of International Organizations for 'Mixed Migration': Some Implications of Human Rights Based Approach in the International Symposium; Transnational Migration between the Right to Freedom and the Control of the States (Yamagata University, 13 September 2015)

(2) 教育・地域連携等の活動

- 担当科目：国際法，国際組織法，国際法演習，法経政策専門基礎演習，総合講座Ⅰ（公共政策），総合講座Ⅱ（法律）それぞれ1回分を担当，公務員対策セミナー（基盤教育）国際法からみた現代国際社会における共生（共生を考える）
- 東北学院高校出張講義（2015年8月），岩手県立大船渡高校出張講義（2015年10月）いずれも「国際法って何？―捕鯨問題を通して考えてみよう―」というテーマで講義
- （講演）「国際テロ対策と国際法―国連安全保障理事会の取組みを中心に―」山形県爆発物原材料取扱事業者等ネットワーク総会（2015年10月，山形県警察本部）
- 学内委員：学部目標評価委員会（予算施設整備部会，教育方法検討部会，研究活動推進部会），教育ディレクター，学部将来構想委員会，GS課程WG（?），人事選考委員会（2件）

(3) 研究・教育活動に関するコメント

平成25年度から参加している「人の移動の自由と管理」科研費共同研究について，一応の成果をまとめたが土地勘のない領域に踏み込んで彷徨っている感があり，道半ばである。国際立憲主義に関する研究について新たに科研費を獲得することができたが，十分な研究時間が取れず資料収集・調査に力を注ぐことにした。改組関係等で虚無感を抱くことの多い年であったが，そうした経験はきっと将来何かに活かされるのだと信じている。

**村松 怜**

(1) 研究成果

「西洋史における財政史研究の展開とその示唆」，日本財政学会第72回大会

(2) 教育・地域連携等の活動

〈担当科目〉

基盤教育：「日本の財政問題について考える」

専門科目：「経済政策論（前期）」，「経済政策論（後期）」，「日本経済論」

(3) 研究・教育活動に関するコメント

学会報告のために執筆した論文は，修正の上，他の研究者との共同研究として刊行される書籍に収録される予定である。

**安田 均**

(1) 研究成果

〔論文〕「複雑労働の理論的可能性」経済理論学会『季刊経済理論』第52巻第1号（2015.4）。  
「生産的労働と生産過程論の再構成」『経済学の座標軸―馬渡尚憲先生追悼論文集―』第3章，社会評論（2016.3予定）。

〔解説記事〕「ピケティとアベノミクス」山形県経済社会研究所『山形県の社会経済・2015年』（2015.11）



「経済指標の解説」連合山形『春季生活闘争方針』(2016.2)。

## (2) 教育・地域連携等の活動

[教育] 基盤：市場と人間の生活（人間を考える），教養セミナー「格差を考える」

専門：経済原論，市場と組織，経済原論演習，学部共通科目「地域社会論」，公務員講座（春休み，論作文1コマ），宮城学院女子大学「経済社会特論」。

[地域連携等]

- 連合山形総研・連合総研「山形県内の地域活動に関する共同調査研究プロジェクト」調査研究委員会委員
- 山形県村山総合支庁との共同研究会「山形仙台圏交流研究会」幹事。関連して県より「地域課題解決型実践活動モデル事業」（対象山寺地区）を受託し，現地事前調査会，紅花祭り，高瀬地区学生動員に伴うワークショップ，現地成果報告会に参加。
- 出張講義：山形県立新庄南高校（2015年9月17日）。

## (3) 研究・教育活動に関するコメント

講義では引き続き授業支援システム Webclass を利用しつつも，教室でのレスポンスカードを用いての復習・確認，質問・回答に時間を割くよう務めている。学外団体から要請される経済指標等の解説記事の執筆，あるいは共同調査への参加は研究の間口を広げてくれるので，時間の許す限り引受けたい。

## 山口 昌樹

### (1) 研究成果

受賞

Best paper award at Society of Interdisciplinary Business Research, Osaka Conference, 2-3 July, 2015, Yamaguchi, M., International Syndicated Loans and Japanese Regional Banks: Comparison between the First and Second Internationalization

論文

- Yamaguchi, Masaki, Participation of Japanese regional banks in international syndicated loans: Lending behavior and explanatory factors, Review of Integrative Business & Economics Research, Vol 4 (2), pp. 220-236, 2015
- Yamaguchi, Masaki, International Syndicated Loans and Japanese Regional Banks: Comparison between the First and Second Internationalization, Review of Integrative Business and Economics Research, 4 (4), 121-141, 2015
- Yamaguchi, Masaki, Lending behavior of Japanese megabanks in the Thai project finance market, Review of Integrative Business and Economics Research, 5 (1), 75-93, 2016

学会報告

- 山口昌樹 International syndicated loans and Japanese regional banks: Comparison between the first and second internationalization, 日本金融学会2015年春季大会，東京経済大学，2015年5月16-

17日

- Yamaguchi, Masaki, International syndicated loans and Japanese regional banks: Comparison between the first and second internationalization, SIBR 2015 Osaka Conference on Interdisciplinary Business & Economics Research, July 2-3, 2015
- Yamaguchi, Masaki, Lending behavior of Japanese megabanks in the Thai project finance market, SIBR 2015 Hong Kong Conference on Interdisciplinary Business & Economics Research, October 3-4, 2015

講演

- 山口昌樹「地域金融機関による中小企業の海外進出支援」, 東京大学金融教育センター, CARF セミナー, 2016年2月1日

学会座長

- 日本金融学会2015年秋季大会, 「地域・中小企業金融」セッション, 東北大学, 2015年10月24-25日

国際研究交流

- 英国 シェフィールド大学との研究交流 2016年3月12-14日, シェフィールド大学

研究拠点形成

- YU-COEC「地域価値創成に貢献する University Entrepreneurship 研究拠点」拠点長
- 山口昌樹「地域金融機関による中小企業の海外進出支援」, 第2回研究会, 2016年1月12日, 山形大学

## (2) 教育・地域連携等の活動

教育

- 担当授業: スタートアップセミナー, 金融論, 国際金融論, 証券経済論, 国際金融論 演習, 国際金融論特論, 国際金融論特別演習, 国際経済法務特別研究

社会連携

- 山口昌樹「社会科学研究者のCOIプロジェクトへの関わり」科学技術振興機構・研究開発研究センター「研究開発プロジェクトにおける人文・社会科学研究者参画の効用~COIプログラムにおける実践~」ワークショップでの報告, 2015年7月8日
- 「COI シーズ・ニーズ探索」ミニ・ワークショップ, ゼミ生9名も参加, 山形大学人文学部, 2015年8月3日
- 「COI シーズ・ニーズ探索」拠点ワークショップ, ゼミ生4名も参加, 東京工業大学キャンパスイノベーションセンター, 2015年9月17-18日
- 山口昌樹「社会システム研究」センター・オブ・イノベーション(COI)プログラム『フロンティア有機システムイノベーション拠点』シンポジウムでの報告, 伝国の杜, 2015年10月15日
- 社会実装に関する調査, 北九州スマートコミュニティ創造事業, 2015年12月7日, 北九州市八幡東区東田地区
- 山口昌樹「社会システム研究委員会」サイトビジットでの報告, 2016年1月8日, 山形大学工学部

- ・山口昌樹「社会システム研究委員会」COI 全体会議での報告, 2016年2月26日, 大日本印刷, 東京

(3) 研究・教育活動に関するコメント

これまでに進めてきた研究に加えて, 社会連携, 研究拠点形成, 国際研究交流と活動の幅が一気に広がった1年であった。

**山本 匡毅**

(1) 研究成果

【論文等】

- ・山本匡毅 (2015) 「中部圏における航空宇宙産業クラスターの形成」, 山崎朗編著『地域創生のデザイン』中央経済社, pp.115-133。
- ・山本匡毅 (2015) 「航空機産業の産業構造と九州・山口へのインプリケーション」『九州経済調査月報』第69号, pp.2-7。
- ・山本匡毅 (2015) 「地方圏における医療機器産業の集積形成—山形県の潜在力—」, 『山形県の社会経済2015年』pp.27-37。
- ・山本匡毅 (2016) 「超高齢社会の課題解決に向けた健康機器産業が果たす役割」, 機械振興協会経済研究所『超高齢社会の課題解決に向けた機械情報産業の新展開』(刊行予定)。

【学会発表】

- ・山本匡毅「中部圏における航空機産業の取引変化とクラスター形成」産業学会第53回全国研究会 (2015年6月12日, 中央大学多摩キャンパス)
- ・山本匡毅「日本における航空機産業の立地と集積の再編」日本地理学会2015年秋季学術大会 (2015年9月18日, 愛媛大学城北キャンパス)

(2) 教育・地域連携等の活動

【教育】

(学部) 地域政策論, 地域政策論演習, 地域づくり特別演習 (一), 地域づくり特別演習 (二), 公務員対策セミナー (論作文)

(基盤教育) 基礎から産業・中小企業を考える (経済学), スタートアップセミナー

(大学院) 地域政策学特論Ⅱ。地域政策学特別演習, 地域政策特別研究

【地域連携等】

[委員・研究員等]

- ・一般財団法人機械振興協会経済研究所「高齢社会の課題解決に対応した機械情報産業の新展開に関する調査研究委員会」委員 (2015年6月～2016年3月)
- ・長井市「長井創生会議」委員 (2015年6月～2016年3月)
- ・法政大学比較経済研究所兼任研究員 (2015年4月～2016年3月)
- ・公益財団法人川崎市産業振興財団新産業政策研究所客員研究員 (2015年7月～現在)
- ・山形大学東北創生研究所研究員 (2013年6月～現在)

- 山形大学山形・仙台交流圏研究会への参加（2013年4月～現在）

〔講演〕

- 山形大学都市・地域研究所2015年度「山形の魅力再発見パート13」「航空機産業の成長と地域における産業集積形成」（2015年9月5日 山形大学人文学部）

—山形県を事例として—

- 人文学部公開講座「地方圏の製造業と医療機器産業」（2015年10月29日 山形大学人文学部）
- 山形県航空機産業参入拡大セミナー「航空機産業の現状と参入戦略について」（2015年11月27日、ホテルメトロポリタン山形）
- 山形県新企業懇話会と山形大学との交流懇談会「航空機産業の現状と今後の課題について」（2016年2月2日、ホテルメトロポリタン山形）
- 平成27年度第2回新素材・加工産業研究会，平成27年度第3回いわて医療機器事業化研究会合同研究会「成長産業としての医療機器産業と航空機産業への新規参入の条件」（2016年2月8日、ホテルメトロポリタン盛岡 NEWWING）
- IVY Youth 学習会「地域問題の困難性と解決の糸口」（2016年2月28日、山形テルサ）
- 一般財団法人機械振興協会 平成27年度機械工業補助事業・成果報告セミナー「超高齢社会における健康・福祉機器を軸にした地域活性化」（2016年3月4日 機械振興会館）

〔高大連携〕

山東探求塾「航空機産業の成長と地域における産業集積形成—山形県を事例として—」（2015年11月9日 山形大学人文学部）

〔コーディネート〕

山形県子育て推進部「大学生ライフデザインセミナー」（2015年11月7日 白鷹町）

### (3) 研究・教育活動に関するコメント

今年には教育と地域貢献を中心に取り組んだ。教育面では、地域政策論演習で2つの自治体において学生のフィールドワーク学習をさせていただくことができた。地域貢献では、専門を活かして総合戦略の策定のお手伝いをさせていただいた。このような環境を作っていただいた人文学部の皆様に感謝申し上げます。

## 【附属ナスカ研究所】

### 山本 睦

#### (1) 研究成果

〔論文等〕

1. 2015 「インガタンボ遺跡（第四次）およびイェルマ遺跡の発掘調査」『古代アメリカ』 18号 pp. 65-77。マリーナ・ラミーレスと共著
2. 2015 「ペルー北部地域，インガタンボ遺跡の発掘調査：Excavaciones del sitio arqueológico Inгатambo, zona norte del Perú」, 『ペルー古代アンデス文明研究における日本人の貢献：Aporte Japonés a la investigación de las Antigua Civilizaciones de los Andes del Perú』

pp. 104-106, 114-115, 在日本ペルー大使館。

〔学会・シンポジウム等口頭発表〕

1. 2015 Carácter y distribución de la arquitectura pública; Una mirada a las interacciones sociales de frontera desde la arquitectura pública en el extremo norte del Perú. Tradiciones tempranas de arquitectura pública de los Andes Centrales. 55 ICA, 13 de julio, Universidad Francisco Gavidia. San Salvador.
2. 2015 Sociedades del Formativo en el extremo norte y la vertiente occidental de los Andes; Un caso para el estudio de fronteras culturales. Simposio conmemorativo por el centenario del nacimiento de Seiichi Izumi. 4 de agosto, biblioteca nacional del Perú. Lima.
3. 2015 Investigación arqueológica en el extremo norte de los Andes; Una perspectiva desde el valle de Huancabamba-Cajamarca. II Simposio de Arqueología, Avances de las Avances de Las investigaciones arqueológicas de las misiones italiana y japonesa. 5 de septiembre, Museo Antonini. Nasca.
4. 2015 「ペルー南海岸・インヘニオ谷における考古学調査」, 第20回古代アメリカ学会研究大会, 12月5日, 東京大学。松本雄一／坂井正人／ホルヘ・オラーノ (山形大学), ヨシミツ・ホイヨと共同発表

(2) 教育・地域連携等の活動

〔担当授業〕文化人類学演習 (一)

〔地域連携〕

1. 2015 「Interrelación y amistad entre Perú y Japón, A través de investigaciones y estudios realizados : ペルーと日本との交流と友好—これまでの調査と研究を通じて—」, ペルー—日本友好の日における講演, 4月1日, 在日ペルー大使館。
2. 「世界遺産ナスカの地上絵:学際的アプローチの成果と展開」, 第一回講座「ナスカ研究の現状と今後の展望」, 6月1日, 山形大学。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

「アンデス比較文明論」(科学研究費補助金・新学術領域研究)によって, ペルー南部ナスカ台地周辺において, 現地調査を実施した。また, 「神殿をめぐる活動と地域間交流の相関からみたアンデス文明形成期の社会動態」(科学研究費補助金・若手A)によって, ペルー北部カハマルカ県で考古学調査に従事した。

さらに, ナスカ市では, 現地の中中学生・高校生による山形大学のナスカ調査・研究についてのインタビューにも対応した。